

2025 年度

上半期報告書



2025 年度新人合宿(槍ヶ岳山頂)

信州大学山岳会

目次

《新人合宿》・・・p.4~

《夏合宿》・・・p.20~

《個人山行》・・・p.35~

4月

妙義 相馬岳北稜

妙義 木戸壁、筆頭岩、西大星岳北稜

北ア 大滝山

北ア 六百山～霞沢岳

5月

東北 会津朝日-駒縦走

谷川 谷川連峰縦走

御嶽 御嶽摩利支天山

6月

北ア 爺ヶ岳鹿島槍ヶ岳

北ア 燕蝶

南ア 鎌崩周回

荒船 荒船山

小川山 屋根岩トラバース

北ア 真砂岳以北縦走

頸城 妙高～焼山

北ア 燕蝶

南佐久 天狗山ダイレクト

小川山 烏帽子左稜線

北ア 槍ヶ岳～西穂高岳

7月

北ア 錫杖周回

北ア 笠双六

北ア 前穂北尾根、北穂東稜

八ヶ岳 阿弥陀南稜北稜

南佐久 天狗山ダイレクト

北ア 白馬朝日

北ア 餓鬼燕

小川山 大貧民ルート

北ア プレ夏合宿

美ヶ原 焼山沢

8月

中ア 三ノ沢岳独標尾根

南ア 北岳バットレス

北ア 地獄夏縦走北ア隊

北ア 単独無補給！北アルプス全山縦走

南ア 夏縦走南ア隊

北ア 雲ノ平周回

9月

北ア 槍ヶ岳北鎌尾根

谷川 谷川岳東尾根、一ノ倉沢

南ア 白根南嶺縦走

松本 女鳥羽川沢登り

北ア 北アルプス1年縦走

大雪 大雪山縦走

中ア 中央アルプス縦走(真)

北ア 錫杖、左方カンテ、1ルンゼ

北ア 槍西稜

北ア 乳川谷沢登り

新人合宿

日程：5/24(土)～5/30(金)

メンバー：

会 4 黒木(L)、椎屋

会 3 金子、木村、小嶋、田中、日比

会 2 江田、武田、橋本

会 1 阿部、伊藤、浦本、江川、高見、
谷口、山下

記録・所感

1 日目

7:55 上高地

8:40 明神

9:40 徳沢

11:00 横尾

2 日目

4:00 起床

5:05 出発

6:45 本谷橋

8:45 1900m 付近引き返し

10:45 横尾

3 日目

3:00 起床

4:00 出発

5:30 本谷橋

9:00 雪訓開始

12:10 終了

12:50 涸沢ヒュッテ出発

14:05 本谷橋

15:10 横尾

4 日目

3:00 起床

4:00 出発

4:55 本谷橋

7:30 雪訓開始

11:00 終了

11:45 涸沢ヒュッテ出発

12:40 本谷橋

13:30 横尾

5 日目

5:00 起床

6:20 出発

8:35 槍沢ロッジ

8:50 出発

9:30 ババ平

6 日目

2:00 起床

2:50 出発

4:25 グリーンバンド

4:50 殺生ヒュッテ

5:30 槍ヶ岳山荘

5:55 出発

7:10 槍ヶ岳

7:30 出発

7:55 槍ヶ岳

10:00 槍ヶ岳山荘

10:20 出発

11:15 殺生ヒュッテ

12:30 ババ平

7 日目

5:00 起床

7:25 出発

7:55 槍沢ロッジ

8:50 一の股
9:35 横尾
11:20 徳沢
11:35 出発
12:15 徳本分岐
12:20 明神
13:20 上高地バスターミナル

反省:

会 1

阿部

<行動>

転倒、尻もちをつくことは合宿中無かったが、足元がぐらつくことが多々あった。原因は浮石の判断を間違ったことや雪上で足を水平に置かなかったことである。足元が雨で濡れている時や下山時に、特に足場をテストイングし体重を預けても安定することを確認しながら行動することを身に着けたい。

疲労時の集中が極端に低下することを感じた。1日目と5日目の歩荷の際に肩が圧迫され疲労が蓄積した。疲労が来ると、上方注意やコールなどやらなければならないことが注意散漫になった。自覚できるレベルで集中力が低下しているのは危険であるから、体力を向上させて苦しい時でもやらなければならないことを当たり前出来るようにする。

上方注意と言われることは日程が進むほど少なくなったが、危険個所を自分で判断確認できるようになりたい。

登っている時と下る時のピッケルの向きを注意されることが山行を通じて多かった。後半は意識して動かしたが、身に染

み込ませるために小さなピークでも細かく動かすようにする。

<生活>

全体的にテント内の行動スピードが遅かった。自分だけでなくテント内の他の人の動きを予想して、先の行動を考えることが大切だと思った。

火器の扱い方がまだまだだった。プレ火不足で炎上させてしまうことや、鍋持ちの手を放してしまうことがあった。着火しますのコールを間違えて、点火しますとコールしてしまうことがあった。火器に限らずコールは、命が架かることがほとんどなので間違えず迷うことなく瞬時に出来るようにする。

テントを畳む時間を早くしたい。最終日のテント撤収時では、入り口を締め切った状態で畳んでしまい空気を抜くのに時間がかかり、雨が降っていたので体を濡らしてしまった。

天気図を書くための基本技術が出来ていなかった。実際に山で書くとスピードに焦ってしまい晴れの記号が分からなくなってしまった。天気図は練習の数が物を言うので自分で練習しておきたい。

<雪訓>

自分はピッケルストップが会1の中で1番下手だった。恐怖心からブレードを体に付けることが出来ず、何度も練習することになった。基本姿勢が崩れないようにと何度も同じことを指導されたので、言われたことをそのままやれる、考えずに動けるように体で覚えたい。トラバースや直下降で下る際に姿勢がへっぴり腰になっていた。へっぴり腰だと不安定に

なるうえ、一步で進める距離が短くなる。姿勢は歩行の安定性に大きく関わるので正しい姿勢で歩けるようにしたい。雪訓を行った涸沢の雪質は一部が凍っており硬かったが、槍の下山時の雪質は踏み固めても崩れるほど柔らかかった。凍っている雪面では足場を蹴り込む力が足りず、つま先立ちになって姿勢を崩すことがあった。安定した足場を作れるように、雪質に応じて蹴り込み方を変えることを考えたい。雪上では音が吸収され、強風で音がかき消される。大声で返事・コールをするようにし、大きな声が出せるようにしたい。

<感想>

自分にとって久しぶりの山だったが、ザックの重量から生活のルールまで、何から何まで違う山岳会スタイルの山行で、自分の今までの山の認識が変わっていくことに戸惑うことが多かった。それゆえ不快に感じることもあったが、自分一人では到達できない残雪の槍ヶ岳に登頂し、登山の奥深さや山の偉大さを感じることが出来た。苦しい事は今後いくらでもあるだろうが、山に登り続けたいと思った。

伊藤

今春の新人合宿では多くの学びが得ることができた反面、自身が持つ多くの課題も浮き彫りになった。その反省を行動・雪訓・生活の三つの側面から行っていこうと思う。

まずは行動面である。今回の合宿全体を通して、私は隊のペースについていくこ

とに集中するあまり、慎重な足置きや上方確認、ピッケルの向きなどの安全を確保するための行動がおろそかになっていたと思う。先行者に早く追いつこうと不十分な蹴り込みをして滑ってしまい、先輩に注意されたこともあった。隊のペースを乱すことも大きな問題であり、体力向上によって改善を図らなければならないが、登山において最も大切である安全への意識が弱まっていたことは山へ入る者としてあってはならないことである。最悪スピードは二の次にして、まずは安全・確実に歩みを進めることを肝に命じておきたい。

次に、雪訓での反省に移る。前項でも述べたような不十分な蹴り込みのほか、つま先が浮いてしまって水平ではない蹴り込みをしてしまうことが多々あった。直下降で腰が引けてしまっていたのもこれが原因であると考え。雪渓では、一回バランスを崩しただけでも命取りになる。水平で安定した確実な足場をコンスタントに作り続け、なるべく速く通過せねばならない。今回のようなスピード・質の双方で大きく劣る雪上歩行で雪山に入れば、命がいくつあっても足りないだろう。限られた今後の週末山行の機会を最大限に生かし、確実な雪上歩行技術を身につけなければならない。

次に生活についての反省に移る。朝の準備、パッキング、エッセン準備、全ての行動が遅く、特に2日目の朝では隊の出発を遅らせてしまった。まだ慣れていないのも原因の一つではあると思うが、なにより目の前の作業に集中して周りや先

行きが見えていなかったと痛感した。次に行く作業は何か。周囲の同期は今何をしているのか。この状況で自分は何をしたらよいのか。そのようなことを俯瞰して考えることなしに素早い準備はなしえないと思う。行動面での時間削減は安全・体力的な問題から限界があるが、生活面は工夫をしていくことで大幅に時間を節約することができる。先輩の行動や技術を盗むなどして、生活を素早くこなせるようになりたい。

今回の合宿は山岳会に入って初めての山行であった。実際の山に触れ、登ってみることで

一つ一つの行動の意味を改めて理解し、今までの自分がいかに受け身的であったかを痛感した。「怒られるからやる」という薄っぺらい動機から生まれる行動には何の意味もない。これからは教えられたことの意味をしっかりと理解するだけでなく、言われた以上のことを吸収するという意気込みで山行に臨んでいきたい。

浦本

〔行動〕

私は新人合宿での行動の反省が四つある。一つ目はコールの意味だ。落石注意の時に私は情報注意と同じ意味だと思い返事を返した。しかし実際は自分が石を落とすことに注意という意味であり今後からはわからないコールをされたらあやふやにせずコール者に聞こうと思う。二つ目はピックの向き、持つ手だ。合宿時のジグザグの道でよく先輩にピックの向

きを考えろと言われることが多々あった。後半はよくなったが自分で気づくことが何回かあったので先輩方のように自然と変えられるようにしたい。三つ目は上方注意 斜面の位置の意識である。行動中は意識できていたのだが、一本中にゆるんでいる部分があった。また、反省会の時に先輩がただやるのではなく意味を考えろと言われ、はっとなった。確かに上を見ることはしていたが、それも一瞬で上方注意とは言えなかった。次の週末山行では止まってでもしっかり上を意識すること。さらに上方注意を特に行う場面を考えるようにする。四つ目は落石が起きないように位置に足を置くことだ。槍ヶ岳アタックの時私はリード者として先頭をしていたのだが、岩の端に足を置いてしまい、岩を落としてしまった。その時先輩に足の置く位置考えろと言われ、歩く時も常に安定しているところに足を置く。

〔生活〕

生活についての反省点は五つある。一つ目は朝の火器だ。私は合宿中に三回朝の火をしたのだが 3 回やって上手くいったのがなかった。その理由として次やる行動を予測できなかったことがあげられる。次からは予測をして軍手を早くはめたり、補助してくれる人に指示をするなど常に言って先を意識して火を起こしていく。二つ目はテントをたたむときである合宿中テントをたたむ時間が最遅の時があった。その理由として連携不足があげられる。テントをしまうとき一人では絶対にできない。相手と常に会話をして

情報共有をすることで仲間と協力し、これも火器と同じだが先を意識して動きたい。三つ目は朝の準備だ。朝の準備をしておかないとパッキングするときに遅れてしまったり汚くなってしまう。例として夜のうちにザックの横のひもを緩めておいたり、使うものとつかわないものを分けることが大事だと思う。週末山行では朝早く行動するために準備を欠かさずする。四つ目は天気図である。各地点の情報のかきこみはできたが、高気圧や前線を逃していたり、その後の等圧線はうまく書けていなかった。天気図は山に行く上で大事なもので日常で練習していきたい。五つ目は朝起きである。最終日気が緩んでしまい先輩に起こしてもらった。山での予定の遅延は死に直結する。最終日だとしても気を張って過ごしていく。

〔雪上訓練〕

雪上訓練の反省点は3つある。一つは蹴りこみだ。私は特に下がるときの蹴りこみが苦手で何回も強くやらないとうまく足を置く面が作れなかった。またこの合宿で自分の筋力の無さを痛感した。雪上訓練で腰を深く下げたりかかとと尻は一直線などポイントを聞いたので意識してトレーニングしたい。また雪質で蹴りこみ方を変えるのも大事だなと思った。二つ目は体力である。雪での歩行が慣れてないせいか特に雪上訓練で体力の無さを感じた。基礎体力の向上することを前提として、次雪の上を歩くときは雪での疲れない歩行を身に着けたい。三つ目は落ちた時の声である。落ちたとき大きな声を出せなければ仲間気づいてもらえない。

い。山に入るときは常に声を大きくどんな時も大きな声が出せるような声帯にしたい。

〔感想〕

合宿を通して先輩のすごさを実感した行動時は厳しくテン場ではふざけるなど、メリハリがしっかりしていた。また自分の無力さを痛感した合宿でもあった。週末山行ではこれらの反省を生かし自分の成長につなげたいと思う。一週間つらい時やきついときもあったけど、みんなとの仲間意識がより芽生えた最高の一週間でした。

江川

〔行動〕

まず一つ目の反省はパッキングである。私は一日目と五日目の両方でザックが左に傾いていた。特に、五日目は、自分のパッキングのせいで隊の足を止めさせることになった。自分の行動が隊の行動を遅らせることに繋がると実感した。七日目の先輩に教わりながらのパッキングは、この合宿中で一番うまくいったため、そのコツを忘れずに続けていきたい。二つ目の反省は、コールを聞き間違えた挙句にそのコールを後ろへ流したことである。間違えた情報を隊全体に伝えるというのはあってはならないことである。コールの内容を決めつけず、しっかりと聞く。内容が曖昧なら、聞き返すということを当たり前にしたい。そして、読図による現在地把握もできていなかった。もっと自分の歩く場所の地形的特徴

などを考え、今どこを通っているのかを推測するという事を常に心がけていこうと思う。もう一つ改善すべき点として歩行技術がある。この合宿中に私は岩場や雪渓で何度も滑っている。どの岩がなぜ滑りやすいのか、自分の体重を預けることができるのかをしっかりと確認する。また、これからの山行でフラットフットイングを意識して体に覚えさせていく。

〔生活〕

生活での反省は特に火器の取り扱いである。初めに軍手をはめたまま床についたこと。着火に関わるものは濡らしてはいけない。次にポンピングの可動域が小さく遅かったこと。空気を送り込むための動作であるため、すべてを大きくかつ早く行い空気を効率的に供給していく。そして、火器の足の部分で火に近い上の部分を持ったこと。このようなことで大けがをしてはならない。気を引き締めて火器を取り扱う。火器以外でも、テントをたたむのが遅い、アタック装備の切り替えが遅いことが反省点にある。朝の支度は就寝前の道具の整理を工夫して対処しようと思う。

〔雪訓〕

一番の課題は蹴りこみである。つま先が上がったまま蹴りこむことで水平にできていなかった。また、同じ場所に蹴りこむこともできなかった。他にも、股関節から振り上げ、太ももとつま先を一緒に蹴りこまなければならないのを太ももが先に降り切ってからつま先で蹴るという動作をしていた。雪上での姿勢もよくな

く、重心もぶれていた。そのため、力強くけりこむことができなくなっていた。そして、上方確認もおろそかになっていた。特にクライムダウン、直下降で顕著に表れた。特に雪上では、落石の音は聞こえない。上方確認によって自分の身を守れるようにする。また、すべての動作が遅かったことも反省点である。一発でステップをつくる、手足をもっと早く動かすなど素早く効率的な行動を心がけていきたい。

〔感想〕

たくさんの初めてを経験した合宿となりました。雪上や歩荷、生活などで明らかになった反省点を改善できるようにしていきたいです。そして、今回は上級生のおかげで槍ヶ岳での景色を見れたので、自分の力で登れるようにしたいと思いました。

高見

今回、新人合宿を終えて数々の反省があった。

まず行動面についてだが、私は1本の後にガッシャーを背負うのに時間がかかり、隊の出発を遅らせてしまった。山での時間は大切に少しも無駄にできない。ガッシャーが重くて背負うのに時間がかかることは事前にわかっていたのだから、1本が終わる前に早めに背負い始めるべきだった。また上方注意を何度も指摘された。特に3日目の雪訓の帰りに自分の情報から落石があったのにもかかわらず、4日目以降も上方注意について指摘された。雪上での落石は音が聞こえず

とても危ない。今後、行動中は何かあっても上方注意を怠らず、また上級生に言われずとも自分で危険箇所を把握して意味のある上方注意を心掛ける。そして自分は歩荷力がなく、特に5日目の横尾からババ平までの道中で何度もふらついたり歩行速度が遅くなったりした。これはこれから山に入るうえで早急に改善しなければならない課題であるため、筋力をつけて荷物が重くても動けるようにしたい。さらに、読図も時間がかかり、簡単な場所であっても正確性に欠けていた。山での現在位置把握ができなければ遭難事故に直結するので、下界でも練習してより正確で素早い読図技術を身に着けたい。

次に生活面での反省だが、最も大きな反省は天気図についてだ。下界で練習はしたがそれで満足しており、完璧には程遠い出来であった。具体的にはメモしたことを天気図に書き写すことを忘れ、低気圧や前線が抜けている、等圧線の感覚がおかしい、書き方の間違い、書くのが遅いなどだ。山での天気は次の行動を決めるうえで非常に重要な要素であるため、下界でも日々練習して少なくとも正しい天気図が書けるようにする。テント内の生活ではエッセン、朝食の手際が悪いことが挙げられる。軍手をしたまま書き以外を扱ったり、次するべきことを忘れて注意されたりした。これらについては常に次の動作を考えたり、その行動をする意味をしっかりと理解したうえで、素早く効率よく行動することを心掛ける。またテントをたたむのが遅く、1年が三人い

るのに手間取ってしまった。もっと互いに声がけをして協力して行いたい。

最後に雪訓での反省だ。私は特に直下降や斜め下トラバースで踏み込みが水平にできない、けりこみが甘い、ふらつく、基本姿勢が崩れるといったことについて指摘された。踏み込みが水平にならなかったりふらついたりするとバランスを崩しそのまま滑落するので、もっと筋力をつけて冬までに安定した歩行技術を身に着けたい。また一本のあと訓練する場所まで登るのが遅かった。これは他の場面でも言えるが、一本が終わったらすぐに切り替えて素早く次の行動に移るよう心がける。そして雪訓での最大の反省は滑落停止の訓練で落ちたと叫ぶのを忘れたことだ。このコールは仲間に自分の危機を知らせる重要なコールで、仲間に自分の危機が伝わらなければ誰にも気づかれず谷底に落ちて死ぬことになる。このことを頭に入れ、今後は絶対に忘れないようにする。

今回の新人合宿、最終的には全員で槍に登頂できたが、自分の無力さを何度も思い知らされた。槍山頂に立ったといっても、ただ上級生についていったという印象しかない。今回の反省を踏まえ、いち早く自身の課題を改善し、上級生に頼らず自分たちだけで山に登れるよう日頃から精進していく。

谷口

行動

二日目の本谷橋での一本中に上方注意をしなかった。上方注意というのは上級生

に言われたからするのではなく自分の身を自分で守るためにすることなのでこれからの参考では気を付ける。三日目の雪上訓練の帰りと槍ヶ岳山荘から降りる最初の斜面で滑ってしまった。次回の山行では踵に重心を置いて足を斜面に対して水平に突き刺すことを意識して滑らないようにする。馬場平に行く途中でガッシャーを開けたまま読図をしていた。開けたままにしておくと雨水が中に入ったり、中のものが出てきて回収不可能になったりしてしまうので気をつける。槍ヶ岳の山頂から降りて後の人にコールをするが距離が空いてしまいコールが届かなかったのでお腹の底から声を出すことを意識する。自分で登るという意識が欠けていて通った道を覚えなかったので読図に時間がかかってしまった。上級生の後ろをついていくのではなく自分の力で歩くことを意識する

生活

火器を扱うのにポンピングが少なかったがその場合は炎上リスクが高まるので素早く多くポンピングをする。火器の上にコップェルを置いた時は火の状態を目で確認するのは難しいので音を頼りにすることも大事である。また軍手をつけるかどうかの判断もしなければならない。馬場平へ向かう際のパッキングではガッシャーの上部に大きな装備を入れてしまい情報注意がしにくかった。パッキングで失敗すると行動にも影響が出てしまうので後先のことを考えながら素早くパッキングをする。

雪訓

足を斜面に蹴り込むがそれが浅く体重を十分にかけられないまま登ったり降ったりして何度も滑ってしまった。今回は訓練であるが実際に山に登っている時に滑ると命を落としてしまうので絶対に滑らないようにする。最初は時間がかかっても足場を確実に作るということを意識していく。形が作れるようになったら時間をかけずに一回の蹴り込みで確実に足場を作る。踵に重心を乗せるのが下手なので足場を作った後は少しつま先を浮かせるイメージを持つとやりやすいので実践していく。一つのことを意識すると何か忘れてしまうがそれでは山に登れない。考えなくても自然にできるように体に染み込ませる。

感想

初めての山登りで不安が多いまま入山したが雪上訓練や山での生活、槍ヶ岳への登頂など初めての体験ができて楽しかった。また、自分の無力さに気付かされた1週間だったのでこれからは上級生の技術を見て盗んだり山行一つ一つを大切にしたりして夏休みに入るまでには完璧にする。

山下

〈行動〉

雪のあるところでの上方注意や、折り返しの多い上りでのピッケルの向きなどで注意されることがあった。慣れない雪での歩行や、石や岩にほとんどの意識が向いていたこと原因でと考える。これは山で慣れる以前の問題なので深刻に受け止め改善したい。読図に関しては全くでき

ていなかった。自分の歩いてきた道や時間に意識していなかったこともあり、頓珍漢な場所を指すことが多かった。特徴的な地形があれば歩いているときに頭の片隅に入れ、それを目印にして最低限の予想を立てるように心がけたい。

〈生活〉

すべての手際が遅かった。エッセンにおいては次に何をすればよいのかが頭の中で整理できていなかったことが原因である。テントをしまう作業においては連携がうまく取れなかった。特に起床後はその後の山行に影響を及ぼすのでしっかり頭に入れたうえで山行に臨みたい。

〈雪訓〉

特に下るときに蹴り込みが弱く何度も蹴ったり、浅くなってしまい足場が崩れたりした。足の入射向きや重心の位置を指摘され意識をしてみたらそのようなことがかなり減った。が、まだ完璧ではない。雪の質を判断し、自分の体重を支えられる蹴り込みができるように今後の山行で練習していきたい。

〈感想〉

身体的にかなり負荷の強度が高く辛かったけれど、その分達成感や充実感を味わえて、非常によい新人合宿だった。

会2

江田

・横尾周辺

ただ上高地バスターミナルからの歩道を歩くのはおもんない。先頭だったのでわざとペースを上げてみたが、歩道でどれくらい歩けているかなどは何の役にも立

たない。景色を楽しみながら大股で歩くのが良いだろう。話は変わるが、しょっちゅう事故が起きているのに冷蔵庫という文化を後輩に誇らしげに継承するのはなぜだ。

・涸沢におきましては

昨季の冬は多雪だったので、本谷橋までで二ヶ所雪渓が出た。残雪が残っていると青ガレロードも整備が出来ないので歩きづらい。バシリは初日に会1の中だと阿部に負けて5位。二日目は軽量化が功を奏し4位。橋本 CRAFT JIN はなんであるレーションの量で走れるんだよ。とはいえ、とはいえ、とはいえ、昨年からの成長を感じたタイミングであった。

「Training Manual for the UPHILL ATHLETE」を読んだおかげである。雪訓ではサングラスを忘れたために、晴天の涸沢カールの集光攻撃をもろに食いましたとさ。

・槍ヶ岳に登るぞ

中田が来なかったおかげで天候に恵まれ、超良いコンディションで登れた。風が強いところは多雪とか関係ない。個人的にはせっかくあんな岩峰に登るのだから梯子は使いたくないね！

グダグダ箇条書きでしようもない反省を書いても誰も見ないことにこの一年で気付いたのでそれをしませんでした。すいませんが行間を読んでください。

最後に、今この文章を書いているときには会1達は5人である。だからどうということではないが、長いと3年くらい一緒にいる付き合いのスタートとして、僕

は忘れないと思う。が、忘れるくらい長く付き合えるといいね。[終]

武田

医療係

医療係としての全体の総括としてはうまくいったと思う。初日から行動中休憩中問わず一年生の体調を聞くことができた。一年生も積極的に自分の体調を報告してくれたおかげで症状が悪化する前に対応することができた。雰囲気としても一年生が体調を報告しやすい雰囲気を作ることができた。ただ後半になるにつれ体調を聞く量が減っていったと思う。理由としては仮に多少症状が悪化していてももう行程を通してもらうしかないなどどこか思っていた節があったからだと思う。幸い一年生に大きなけがはなく合宿を終えることができて良かった。

行動

行動としては先頭のペースが課題であった。無意識になってしまうとペースが上がってしまうことがあり、一年生に疲労感や恐怖感を与えていれば申し訳ない。ピッケルやヘルメット、スポットの判断は最初こそ一年生の歩行技術がどの程度かわからなかったのもあり、てこずったがそのあとは二年生が3人しかいない状況ではそれなりにうまくいったと思う。

雪上訓練

雪上訓練最大のミスは二年生同士でのすり合わせ不足があると思う。そのせいで江田が見本の時にミスってしまい上級生として情けない姿を見せてしまった。そしてピッケルストップの時に「止まれ」

とコールした後「ステップ切れ」とコールし忘れることが何度かあった。

生活

生活では指導の足りなさが目立った。特に外エッセンでは炎上しているのに注意しようとしなかった部分にだらしないところが目立った。ほかにも会3の方に指導してもらうなど足りない部分が露出した。生活以外でも指導のメリハリがないことは自分の改善点である。

橋本

今回の新人合宿は去年と違って教えるという立場であり、新しい視点で山に入るというものであった。何かに初めて挑戦するという感覚は去年と同じようなものだったのかもしれない。反省をまとめるにあたって行動、生活、雪訓に分けて記述する。

行動

恥ずかしいミスとして会2にもなって読図を間違えてしまった。気が抜けて地形図をあまり見ずに行動していたのが理由である。教える立場であるので現在地の把握にはもっと慎重になるようにする。自分が先頭になったとき、横尾と涸沢間のペースが早くなってしまった。また、一本のタイミングもキリがいいと言って一時間以上歩いてしまった。会1がついてこれているから、あまり疲れていなさそうだからいいと思ったが、初めての山にするとペースが早かった。また、最終日の横尾からは去年の感じから気が緩み、自由に帰るから会1は見なくていい

と思い込んでほったらかしにしていたのは反省である。コールをする量が少なく、会1への危険を伝えることも不十分であった。自分には会1の面倒を見ると意識が全体的に足りていないと感じた。この他にも自分の判断基準がはっきりしていないが故に自分に自信がなく、発言する場でもあまり積極的に言わないという現状を今山行で痛感した。

生活

行動と同じような反省になるが会1の面倒を見るという立場であるのにあまり積極的に見ようとしていなかった。他の人に指示しろと言われたことを指示したり、自分が言わないから他の人が言うということが多かった。外エッセンだからという謎の理由で気が緩み、外でのんきに寝ていたことも意識の低さの表れである。会1にとって山の生活の基本を教える場での態度としてあってはならなかった。また、注意の仕方も相手に伝わるように工夫する必要性も感じられた。

雪訓

自分は雪訓係であり係の反省とともに雪訓の反省を記述する。一番の反省は歩行の見本中に会2同士で意見の齟齬があったことである。これによって空気が乱れ、グダってしまった。事前にすり合わせはしておいたが、それが甘かったためかこのような結果になってしまった。もっとお互いにしっかり確認しておくべきであった。会1に説明する際に、どこで使う技術であるのかなど、実際の場面を

想定させた方が納得しやすかっただろうと今になって思う。形式的なものではないということをしっかり伝えておくべきであった。

会3

金子

今年は会3に学年が上がり、会1の直接的な指導からは少し遠ざかったことと、特に役職に就かなかったことに甘んじて、自分の中の本合宿に対する熱意や主体性に欠けていたと感じる。

行動面については、会1の様子や危険箇所の観察を適当にしたり、隊全体の進行における残り行動可能時間や雪渓通過方法に対する思考が少なかったりと、意識が散漫になっていることがあった。

生活においては上級生との談笑や自前の装備の保守点検に気を取られ、肝心の会1の火器の扱い上の誤りなどに気づけないことがあった。また、エッセン用ズタ袋やその他団装の数量及び内容の把握がずさんで、出発する際の団装わけの時点でペミカンの不足に気づけなかったり、各装備の所在をわかっていなかったりと散々であった。

雪上訓練では、自分の経験をもとにした非常に感覚的な表現を用いて会1の指導に当たってしまったことが悔やまれる。おそらくこちらの意図するところは伝わりきらなかっただろう。基本的に1対1の指導だったが、時折応援に入ってくれた確かなアドバイスを残していった他の上級生に大いに助けられた。

今回の新人合宿は、会2が大勢いた去年の感覚をそのまま今年に持ち込んでしまい、入山前準備から下山にいたるまで自分は大した働きをせずに、会2に多くを丸投げした感が否めない。それにより会2一人当たりの業務量が増大したのは明白だった。また、松本にいた者としても、装備チェックの詰めが甘かったり、山行準備の段取りが悪かったりと課題の多い合宿だった。

木村

今回の新人合宿では、SLとして合宿の運営を黒木さんから任せられた。会4に口出しをさせないように運営することが命題だったが、結果として多大な協力を得てしまった。

会3としてどこまで雪訓中、行動中に口を出すかが悩ましく、先に会4に言わせてしまう場面があった。会2への指摘はまだ直接言えばいいが、会1への指摘では直接本人に伝えるべきか、会2にその旨を伝えるべきか、その場で適切に対処できなかった。また、会2は判断の根拠に乏しいことが多く、口を出す際には判断の根拠と目的を明確に伝えるべきだった。全体への指示出しでは、曖昧になり誰も動こうとしないことがあり、今後は誰に何を任せるかの割り振りが運営上重要だと感じた。

今山行では装備係の江田が、偵察や一時下山でいなくなる場面があり、そのカバーが欠けていた。特にベースを横尾から槍沢ロッジに移した時に、冷蔵庫の中身が紛失したことは、まさに誰が江田

の不在を補うかが曖昧であった結果と言える。

今回初めて隊全体を動かす役割を与えられたが、全体を俯瞰して抜けがないかの把握と、的確な指示を出す難しさを感じた。今後は普段の総会や合同岩トレから、山岳会としてどのように動くべきかを考えていきたい。

小嶋

本新人合宿は、その目的とは裏腹に、部全体、特に我々上級生の「慢心」と「安全意識の欠如」を露呈する結果となった。

私は会計係であり、金銭のやり取りに関するあらゆる事象について事前調査を十全に

行うことが責務であるはずだった。問題は最後に発生した。駐車料金の支払いにおいて一万円札が使えず、結果としてメンバーに建て替えてもらう事態となったのであった。これは単に運がなかったというだけの話ではない。あらゆる事態を想定し、事前調査を徹底する、という山行における基本が疎かであった証左に他ならない。料金準備不足は序の口である。私の最も大きな失敗は食料の要であるペミを流失させたことに気づくことなく、隊への報告を怠ったことだ。おかげで我々の食卓から二日間、脂質と希望が消えた。ここでの問題はただペミを失ったこと以上に、危機的情報を共有し、組織として対応する機会を奪ったことにある。この懈怠は私個人の危機管理能力の欠如を如実に表しているといえよう。ま

た、安全管理に至っても致命的だ。指導者たる私自身が指導対象の振り上げた足で流血する始末であり、安全な距離感という初歩すら守れていなかった。これは「上級生が、本合宿で最も大きな怪我を負った」という極めて不名誉な事実である。下級生に怪我をさせなかったことが単なる幸運に思えてくる。今合宿で猛省している点だ。以上が私の個人的なレベルの反省である。

会一は、生死を分かち生命線である返事の重要性を脳髓に刻むべきだ。また、上方注意は形骸化し、山での火傷を軽んずるなど、怪我は命取りだという基本認識が欠落している。今回学んだ基本こそ大事にしてほしい。そして会二は、会一に舐められているという現実を直視し、我々会三が果たせなかった厳格かつ求心力のある指導者像を築くことを強く求める。下級生となれ合うことと慕われることとは全くの別物である。人数差は気迫と厳しさで補うのだ。

本合宿における数々の問題の根源は、ひとえに我々上級生の気の緩みに帰結する。会の雰囲気、規律、そして安全とは、上級生のみならず会一を含めた全会員の不断努力によってもたらされるものだ。各々が自分事として捉え、組織の抜本的な改革に繋げねば、未来はない。

田中

昨年に引き続き上級生として新人合宿に入山した。上級生とはいえ会二と会三では役割が異なるようであり、なかなか思い通りにいかない合宿となってしまう

た。これから1年間会三として山岳会に所属するにあたり、今後改善すべき反省点を記す。

まず行動についての反省。行動中、私が担当している会一以外に指摘する機会が少なかった。基本的に全体の指示出しや注意は会二が行うということであったため、会三である私は控えるというスタンスで山行に臨んでいたため、終始会一に対する指摘が少なくなってしまった。会二3人での運営ということもあり、手が回らないことは明白であった。入山前から人数比の問題について考えておくなり、山行の途中からでも自身の立ち回りを変えるなり対処をすべきであった。このことは気づかなかったというよりも、自身の怠慢であったように思える。今年は会一に対して指導をしなくともよいという考えは全くの怠慢であり、会三であったとしても手伝えることには手を出すべきである。また行動中の会一のミスはそのまま事故につながる可能性が高いため、自身の立場を考えて控えるよりもミスの指摘は行うべきだ。内容は変わるが、上級生同士の連携も上手くできなかった。誰が何を担当しているのか、を誰も把握しきれていなかった。上級生の人数が多く、リーダーだけでは対応しきれない事案も多いため、自身が何を担当するかについて誰かに伝達しておくことが重要になる。

次に生活についての反省。生活においても行動と同じく、どの程度の温度感で、どのような立ち回りをするのが中途半端であった。実際に生活の中にも危

険な場面は多くあったが、指摘できていなかった。また上級生全体として空気を緩めすぎた点も反省すべきである。緩んだ空気感の中では会一は集中できないように、会二も注意しにくい。このような空気感を放置していたのは上級生の責任である。

次に雪訓についての反省。私は全体を回ってアドバイスをを行う役割であったのだが、各人に対して適切な指導ができたかと考えると甚だ怪しい。短時間で改善点や癖を見つけ出すことは難しい。全体を見るのではなく、4人ほどに絞って見た方が効率的だったのではないか。

最後にエッセン係についての反省。ズタ袋の内容に誤りがある、冷蔵庫が流される、といったミスが多かった。幸いどちらも致命的なものにはならなかったが、場合によっては敗退になり得るミスであるため深く反省する。私が途中入山をすることもあって、エッセン係としての自覚が薄かったことが原因なのではないだろうか。要所ごとにエッセン係である人間が、責任をもって確認をするべきであった。

日比

・記録係の反省

特にないが、槍ヶ岳山荘の前は坊主岩小屋、グリーンバンド、殺生ヒュッテ等記録を取れるポイントが密集しているためどのポイントを取ればよいか会1に説明しておく方が親切だと思う。

・個人の反省

フィックスは開始点と終了点のみ自分と椎屋さんと構築しロープを張り、橋本一人で中間点を作るという方法で張ったが、ロープの半分まで中間点を作ったところでカムを使いすぎてしまい結局自分が主体で中間点を作り直すことになり時間がかかりすぎてしまった。去年の新人合宿で穂先に行けていない橋本一人だけで全ての中間点を作らせるのは機会の提供ではなくただの押し付けであり、補助に自分か椎屋さんが入るべきであった。合宿全体を通して、『会2が指導の主体である。』という言葉に甘えてしまったと感じる。会2にとっては山での会1指導は初めての機会であり、会3が手伝って準備し、完璧にやろうとしても説明を間違えたり、空気が締めきれなかったりするものである。そのうえで会3は会2の間違いを正し、足りないところは補足し、指摘が足りなければ代わりに指摘し、雰囲気は緩ければ締めなければならない。今年の会3は全体として基本的に口を出さないというスタンスで臨もうとしたが、塩梅が難しく指導のアドバイスはしたもの雰囲気作りが会2に任せきりになり新人合宿の雰囲気としては緩くなってしまった。口を出すか迷ったら口を出すべきであった。

・感想

会1は4月の入会時点では返事もせず、声も出せず、山のことをほとんど知らなかった。それが、第1回総会でシステムや山の知識を学び、新人合宿で生活を実践し、バシリや雪訓を経験した。その集大成として槍の山頂に会1が立って嬉し

そうにしているのを見たとき、数か月で人はここまで成長できるものなのかと、深い感慨を覚えた。

果たして自分は成長できているのだろうか、会1に「全力を出し切れ」と言っているが自分は最近いつ全力を出し切ったのだろうか、会3という立場に胡坐をかき楽しんでいるだけではないのか、去年から何がどのくらい成長したのだろうか。どれだけ会が上がっても歳をとったとしても自分に満足せず、貪欲に成長していきたいと改めて強く思った。

森

今年度の新人合宿の反省だが、生活、行動と雪訓に分けて述べていく。まず、生活についてだが、全体的に気が抜けていた。今回は途中でテントを横尾大橋の下に移すということがあったが、その時に最後まで動かずにエッセンの時間に遅れてしまったのは自分のテントである。面倒くさいという理由で全体の進行を遅らすということはあってはならないことであり、上級生として率先して動かなければならない場面であった。次に行動と雪訓についてだが、会3として自分の役割がわかっていなかったことが反省である。会2が会1に指導する中で、自分たちがどれだけ介入して良いのかがわからなかったため、最初のうちはただついて行ってるだけになってしまった。入山前にリーダー部員で話しておくべきであった。最後に、大きなトラブルなく無事に終わることができて良かったと感じた。また来年も槍に登りに行きたい。系の反

省：渉外

上高地までのタクシーの手配や沢渡までの送迎の手配をするのが遅すぎた。結果的に大きな問題は起きなかったが、連絡は早いに越したことはないので、3週間前までにはアプローチの車やタクシー、バスの予約を済ませておくべきだ。

会4

黒木

4回目となっても新人合宿はやはり難しかった。

やっと4学年が揃い入山できたが、全学年がいる状態での会4とは、どうふるまうべきなのかにかなり悩んだ。入山前に自分がたてた新人合宿の目標は、「リーダー会でしか口を出さないこと」、「エッセンを全く手伝わないこと」の2つである。実際は、行動中や訓練中にかなり口を出してしまった。もちろんこれは私の反省というより、指示や指摘に不足があった後輩の反省である。今後の講習会では不足がないよう、会2と会3の指導にさらに力を入れたい。エッセンは7日間何もせずに毎日飯を食わせてもらった。作ってくれてありがとう。

リーダー係としていえることは、山行リーダーは会4になると思うが、合宿の中心進行係は会3に任せて正解だったと思った。このようにしていかないと伝統として受け継がれてきている部分の多い新人合宿は回っていかないように感じた。去年はいろいろあったが、4年間新人合宿に参加でき、4年目に全員で槍ヶ岳の山頂に立ててよかった。残り10カ月間

の SAC 生活で、7 人の新人、そして 18 人の後輩を大切に厳しく育てていこうと思う。

椎屋

今回、初めて 4 学年が揃っての新人合宿となった。よって実質的に会 4 は仕事無しとなった。しかしそれを盾にした自由が過ぎたと感じる。一番大きな問題として上高地バスターミナルから横尾までをテン場サンダルで歩き、両足とも靴擦れした事である。履き慣れない靴で歩くには少々負荷が高かったようである。履き慣れた靴の重要さを思い知った。次に訓練中の自分の立ち位置である。初日はマンツーマンだと 1 人足りない事もあり、それなりに口出しをした。また、遊撃隊としても口出しをした。会 2、会 3 が主体となってやる行事でここまで会 4 がでしゃばるのは会としてはよくなかったのかもしれない。技術の継承という意味では様々な人の意見を取り入れるのはよいと思うので、この問題は難しいものである。さらに雪上訓練つながりでは、2 日目に単身 2700 メートルを越える地点まで行った点である。落石等には最大限注意を払ったが、それでも下を巻き込むリスクはあり、訓練の集中を妨げる恐れもあったので、少し安易だったように感じる。他は特に目立った仕事や動きもなかったため割愛する。

基本的には自由にやらせてもらった山行で、山岳会ではなく個として山に行く時の行動や装備の指標が見えたように思う。以上が反省である。

夏合宿

日程：8/17（日）～8/23（土）

メンバー：

- 会 4 黒木、椎屋
- 会 3 日比、田中、小嶋、木村 L
- 会 2 江田、中田、武田、橋本
- 会 1 阿部、浦本、谷口、高見、伊藤
- OB 塩谷さん

記録：

1 日目 天気 晴

02:00 起床

03:00 黒部ダム駅

05:15 内蔵助谷出合

09:55 内蔵助平分岐

12:40 ハシゴ谷乗越

14:55 剣沢渡橋

16:00 真砂沢ロッジ B.C.

2 日目 天気 晴

03:00 起床

04:00 発

源次郎隊（木村、江田、中田、阿部）

05:10 源次郎取り付き

09:30 I 峰

11:00 II 峰

12:15 剣岳

13:05 平蔵谷のコル

15:00 平蔵谷出合

15:40 B.C.

南壁 A2 隊（黒木、日比、高見）

05:30 平蔵谷出合

08:55 南壁取り付き

12:05 TO

12:35 剣岳

14:25 前剣

15:35 剣山荘

16:50 平蔵谷出合

18:00 B.C.

剣稜会隊（田中、小嶋、武田）

04:30 長次郎谷出合

06:20 岩小屋

07:00 剣稜会取り付き

10:50 TO

13:00 岩小屋

16:00 発

17:20 長次郎谷出合

17:45 B.C.

ハツ峰登攀隊（椎屋、橋本）

04:30 長次郎谷出合

06:40 岩小屋

07:00 魚津高取り付き

08:30 TO

09:00 岩小屋

09:30 中大取付き

10:40 TO

11:00 岩小屋

11:30 剣稜会取付き

14:10 TO

15:20 岩小屋

16:00 発

17:20 長次郎谷出合

17:50 B.C.

3 日目 天気 晴

03:00 起床

04:00 発

剣稜会隊（木村、中田、高見）

04:35 長次郎谷出合

06:25 剣稜会取り付き

10:35 TO

12:30 岩小屋

14:15 長次郎谷出合

14:40 B.C.

源次郎隊

（黒木、小嶋、武田、伊藤、浦本）

05:05 源次郎尾根取り付き

09:40 I 峰

11:20 II 峰

12:45 劔岳

13:40 平蔵の科尔

17:50 平蔵谷出合

18:45 B.C.

南壁 A2 隊（田中、江田、谷口）

04:55 平蔵谷出合

07:15 南壁 A2 取り付き

10:55 TO

11:05 劔岳

12:00 平蔵谷の科尔

13:40 平蔵谷出合

14:30 B.C.

富山大隊（日比、橋本、塩谷さん）

04:30 長次郎谷出合

06:00 岩小屋

06:30 富山大取り付き

10:35 TO

12:00 岩小屋

14:15 長次郎谷出合

14:40 B.C.

4 日目 天気 晴

03:00 起床

04:00 発

小嶋以外

04:25 長次郎谷出合

05:00 長次郎谷出合から 100m 上流・撤退

05:30 B.C.

小嶋（下山）

3:50 真砂沢ロッジ

5:00 ハシゴ谷乗越

5:35 内蔵助平

6:35 内蔵助谷出合

7:40 黒部ダム

5 日目 天気 曇

北方稜線隊

（椎屋、木村、田中、武田、江田、中田、浦本、伊藤、阿部、塩谷さん）

02:00 起床

03:05 発

04:30 近藤岩

06:30 池の平小屋

08:15 小窓雪溪

08:55 小窓
11:20 小窓ノ王直下
11:55 三ノ窓のコール T.S.

源次郎隊

(黒木、日比、橋本、谷口、高見)

03:00 起床
04:00 発
05:00 源次郎尾根
09:50 I 峰
10:30 II 峰
11:55 劔岳
13:20 前劔
14:15 劔山荘
16:40 B.C.

6 日目 天気 晴

八ツ峰上半隊

(田中、江田、中田、阿部、塩谷さん)

03:00 起床
04:00 発
04:40 池ノ谷乗越
05:50 a フェース岩小屋
06:15 V・VIのコール
08:05 D フェースの頭
12:00 池ノ谷乗越
12:20 長次郎の頭
13:50 劔岳
15:05 前劔
16:10 劔山荘
18:00 B.C.

北方稜線縦走隊

(椎屋、木村、武田、伊藤、浦本)

04:00 起床
05:00 発

05:35 池ノ谷乗越
08:15 劔岳
09:40 前劔
10:45 劔山荘
12:45 真砂沢ロッジ

長次郎谷～近藤岩隊

(日比、橋本、谷口、高見)

03:30 起床
04:35 発
05:00 長次郎谷出合
06:15 高巻きを試みるも敗退・発
06:40 B.C.
07:00 発
08:10 近藤岩
11:15 発
11:55 B.C.

黒木(下山)

03:30 起床
04:35 発
04:55 劔沢渡橋
05:50 ハシゴ谷乗越
07:00 内蔵助平分岐
08:20 内蔵助谷出合
09:30 黒部ダム駅

7 日目 天気 晴

03:00 起床
04:15 発
04:50 劔沢渡橋
06:40 ハシゴ谷乗越
08:35 内蔵助平分岐
10:45 内蔵助谷出合
12:20 黒部ダム駅



反省：

会 1

阿部

<登攀>

今回の夏合宿で私は、源次郎尾根と北方稜線（上半）を縦走・登攀した。一番の反省点は、ルート調べることをほとんど放棄していたことだ。ルートを調べていなかったことは、先輩に連れていってもらっている意識が抜けていなかったことの現れであったと思う。アルパインの縦走であることから自分の命を危険に晒していることにもなる。

上半では、塩谷さんからロープの谷側に立つなというアドバイスを頂いた。岩トレの立岩ではロープの右に立っても左に立って

も大して違いは無かったが、上半では片側が切れ落ちていたのでこのように言われたのだ。なるほど。毎度違う状況に対応していく必要があるので、頭を使う必要がある。

ロープが上方に繋がっているがあくまで目安のラインであるという事、このことも合宿で学べた。ロープを辿るのが筋だが、左右に楽そうな安全なラインがあるなら、そちらに行くべきであるという話である。自分の命はどの点（終了点なのか中間支点なのか）に掛かっているのかを考え安全確保を徹底することが必要だと感じた。

<行動>

合宿の全期間を通して上方注意が不足していたことが反省点である。歩荷している時やアイゼン着脱作業中は、特に不足していた。上方注意は頻度が一番重要であるから、今どんな地形に立っていてどの方向から落石が降ってくるのかを常に考えて行動できるようにしたい。

内蔵谷や長次郎谷のようなガレ沢を下る際に大きな落石をしたこと。ガレているから多少の落石はやむなしだが、落としてしまった時のラクコールはしっかりと行いたい。

浮石に足を置いたタイミングで姿勢を崩してしまったこと。傾斜がより急であったり、濡れていたとしたら、止まることなく滑落してしまうので気を付けねばならない。

足が痛くなって1日テンバで休むことになったこと。1日テンバで休むことになってしまったのは仕方がないが、今回の足が腫れるような症状は前日にテーピングやマッサージを行っていたならば、少しは症状を

緩和出来た可能性がある。その為今後の山行では、疲労を怪我にしないように事前のケアを充実させていきたい。

上級生から指摘された反省点として、僕が時々通信不能状態になってしまうことがあるそうだ。行動時間が8時間を超えると徐々に集中力が低下することは自覚している。山に入ったからには、気持ちを切らさずに行動できるように意識していきたい。

<生活>

今回の合宿の期間中、何度かテントを出るのが遅くなったことがあった。アタック装備で荷物はあまりないのにもかかわらず。テント内で荷物が散らばらないようにガッシャーに個装を入れたままにしていたことが原因の1つであると思う。荷物の整理という観点では、この合宿でサンダルを見失ってしまった。真砂沢から撤収する前日までは行方を追っていたので、装備はこまめにまとめることを徹底する。

伊藤

新人合宿後の反省会で、先輩方は「無雪期の生活、行動は夏までに完璧にしておくように」と仰っていた。しかし、今回の夏合宿において、自分の技量は完璧どころかあまりにもお粗末なものであった。その反省について、登攀、行動、生活の3つの側面から行っていきたいと思う。

まずは登攀である。登攀前夜、先輩方から「バリエーションルートにおける原則」として、登攀中に決して落ちないようにと教えていただいたにもかかわらず、源次郎尾根の登攀では落ちてロープ

にテンションをかけてしまった。そのうえ、合宿の反省会でもそのことに触れずにいた。これは私の登攀に対する意識が低い何よりの証拠である。今まで岩トレ等で訪れていた岩場と異なり、バリエーションルートの岩場はプロテクションも不安定であり、危険度もはるかに高い。これからは絶対に落ちないという意気込みでより緊張感をもって登攀に臨んでいきたい。また、源次郎尾根で横フィックスから懸垂点に移るとき、その場が安全であると勝手に判断してフィックスからカラビナを外してしまった。初めてバリエーションルートに登る自分に安全か否かの判断などできるわけがない。フィックスを張っている時点で危険個所であると判断すべきであった。

次に行動である。新人合宿以来の課題であるが、やはり体力が圧倒的に足りないと感じた。歩荷中も常に息が上がっており、特に行動を始めて30分ほど経つと歩くのもやっとなほどの状態になってしまっていた。急な登りが続く箇所でも息が上がり、隊のペースについていけないこともあった。また、このような体力的に厳しい状況での上方注意や足置き、コールが不十分になりがちであった。引き続き下界でのトレーニングを行い体力の向上を図るとともに、疲労時でも集中力を落とさない精神力も鍛えていかなければならない。また、今合宿では初めてアイゼンを本格的に使用したが、実際に使ってみることで使用上の課題も見えてきた。歩く際の足幅が狭く両足の爪同士をひっかけてバランスを崩したり、足を

十分に上げられずに前爪で躓いてしまうことがあった。今回はたまたま緩斜面でのミスであったため事なきを得たが、急斜面で同様のミスをするとな命に関わりかねない。今後のアイゼンを用いた歩行では足をしっかり上げ、蟹股気味で歩くことをしっかりと意識していきたい。

次に生活についての反省を行う。朝の準備が遅れて焦り、周囲はテントの片づけをしているのにもかかわらず一人個装の整理をするなど、とにかく周りが見えておらず、自分本位の行動となっていた。朝の生活は個人個人が早くても意味がなく、隊全体がいかに早く出発できるかが重要である。今後は隊中心で考えて行動し、二度とこのような自分勝手な行動がないようにしていく。また、行動直後に疲れからか普段はしないようなミスを連発してしまうなど、生活の質が雑になることも問題であった。幕営地に着いたからといって気を抜かず、自分の仕事はきっちりとこなせるようにしたい。

最後に、個人的な反省としてベースキャンプに着くまでに自分の団装を先輩方に持たせてしまったことが挙げられる。時間はかかったにしても、おそらくベースキャンプまで全ての荷物を担ぎ上げることは体力的に可能であったが、甘えてしまった。これも自分の精神力の弱さゆえである。結果として、私は今合宿の大きなイベントの一つである歩荷を完遂できず、同期に対する劣等感や後ろめたさを残したまま合宿を終えてしまった。この負の感情を払拭するためにも、自己研

鑽を続け、次の冬合宿は気持ちよく終わられるようにしたい。

今回の夏合宿はバリエーションや40kgを超える歩荷、アイゼン歩行など初めての経験を多くすることができた。この合宿で得られた反省を基に、今後の山行をより充実したものにしていきたい。改めて、今回の合宿でご指導いただいた先輩方、OBの塩谷さん、本当にありがとうございました。

浦本 登攀

山で初めて懸垂下降をしてみていつもの立岩の懸垂下降より難しいなと感じた。立岩よりも角度があつていつものように降りると石を落としてしまう危険があつたのでより慎重に降りる必要があつた。これからは特に足をつく時を注意して降りていきたい。源次郎尾根の登攀では一回落ちてしまった。完全に自分のルートミスで違うルートを登ったら楽に登れたので、もっと上る前に全体を見て自分が登る姿をイメージした後に登っていきたい

行動

行動での一番の反省は行きと帰りで落ちたことだ。行きはクライムダウンすべきだったところでバランスを崩して落ち、帰りは平たんところで疲れもあつてか足を踏み外して落ちた。また、バリエーションルートを登っている最中あまり登山道の歩き方と区別をつけなかった。これらは安全に登山するという一番大事なことをおろそかにしており、特につかれている後半で安全を軽視しているなと思う行動がみられた。行動でのこれからの課題として歩荷力強化、

また疲れた後での意識の替え方を身に着けることを意識して、山を登っていきたい。

生活

源次郎尾根を登るとき朝の準備が遅かった、朝ラーメンがのどを通らなかったのもあるが、ほかの部分で短縮できる場所があったので(夜のうちにものをザックにしまいやすい場所においておくなど)次からは意識していききたい。次にエッセンで同じ会一に「次こうしたいほうがいいと思う」といわれる場面が多かった。あまり考えていないことが原因だと思う。生活でも周りを見て次の行動を考えることは大事なのでシュラフに入るまでは脳をうごかしながら行動していききたい。

感想

全体的に足を引っ張っている部分が多いなと感じる夏合宿だった。行動や生活で自分の足りないところが明確になったので、次の山行からはひとつずつ課題をなくしていきたい。

高見

夏合宿の反省について、以下に行動、生活、登攀の3点でまとめる。

・行動

まず初日の歩荷についてだが、これまで担いだ中で一番の重さであったゆえにハシゴ谷乗越の登りでバテてしまった。最後までバラさなかったとはいえ、あのよう歩くだけでいっぱいいっぱいではとても担ぎ通したとは言えない。特に急な登りの場面では1ピッチをととても短く切って一本を取る回数が多くなった。たとえ荷物が重くても最初から最後まで同じスピードで、しっかり1ピッチ1時間のサイクルを守って歩けるようにしたい。また荷物が多くなると必

然的にガッシャーの大きさも大きくなるが、それを全く気にせず歩き張り出した枝をよけきれずに何度も引っかかってしまった。せっかく先頭の人がコールをしてくれているのだからしっかりと周りを見て歩きたい。

2日目以降は雪溪やがればを歩くことが多かった。がれ場から雪溪に降りるとき一度だけスパッツをはかずにアイゼンを履こうとしてそれになかなか気づけずに時間がかかり、隊のメンバーに迷惑をかけてしまった。今後はアイゼンを履くときの手順を忘れないようにする。がれ場の歩行では自分の技術では完全に落石せずに歩くのが難しい場所での判断が悪かった。こういった場面では後ろとの感カウを開けたり、逆に間隔を詰めていったりとより効果的な歩き方をしたい。

・生活

夜の生活で、他の隊の帰りを待って絵戦を温めていた時誤って軍手を地面に落とし、それに気づかず上級生に拾ってもらったことがあった。原因としてはすでに時間が遅く周りが暗くなっていたことに加えて暗いにもかかわらずヘッドライトを付けていなかったことだ。軍手が濡れてしまう可能性があっただけでなく、なくしてしまえばそれ以降生活で他人に迷惑をかけてしまうので、今後は絶対にないようにする。

・登攀

まず登攀での反省は何といっても事前の準備にある。夏合宿に参加する時点で今回自分が登るであろうルートはある程度見当がついていたのにも関わらず、自分は何一つとしてトポやその他の資料を確認してルー

トを完璧に頭に入れておくということをしなかった。これはアルパインクライミングをするうえでありえない行為であるので、このことを頭に入れて今後の登攀でも気を付ける。

また、実際の登攀ではロープの四分の一のコールを忘れたりロープの扱いが悪く途中で何度も絡まったりと細かいミスが目立った。登攀中は危険地帯にいるということ、自分が仲間の命を握っているということ、常に考えながら責任をもった行動をした。

谷口

今年の夏合宿では例年と比べてたくさん登攀を経験することができた。また、自分は会1の中でも一番多くのルートに登ることができた。このような恵まれた環境で夏合宿ができたことに感謝して来年はより充実した夏合宿ができるようにしたい。

生活

週末山行のおかげで流れは覚えていた。しかし慣れというものが生まれてしまいコップフェルを片手で持ったり軍手を防水しなかったりというミスも目立った。そういった細かいところを直していく。

行動

今までで一番重たいガッシャーを背負うことになりかなりきつかった。黒部ダムを出発し早々デカ鍋の持ち手を破壊してしまった。重量があることに加えガッシャーを雑に地面に置いたことで折れてしまったので今後はモノの扱いに気を付ける。ハシゴ谷乗越までの登りが体力的に厳しく30分に一度一本を取っていた。一本を取りすぎるとペースが安定しないので今後は歩く時は

歩く、休む時は休む切り替えをできるようにする。登りの最後の方で背中を痛めてしまったのでこれからは体のことも気にしながら歩く。アイゼンの付け外しが遅いだけでなく左右がわからないという雑魚すぎるミスを連発してしまった。冬はアイゼンをつける機会が増えるので素早くできるようにする。下山日の前日に全裸で寝ていたいので頭からつま先まで日焼けをしてしまいガッシャーを背負うだけで痛かった。日焼けは痛いだけでなく体がだるくなってしまうので次の行動に影響するので気をつける

登攀

南壁に行った際3ピッチ目にロープと岩場が干渉してヘルメットくらいの大きさの石が落石してきた。登る時は上方注意をしていたので大丈夫だったが危険なのでこれからも自分の身を守る行動は続けていく。源次郎尾根で下降が終わりロープを回収する際に引く力が弱く引っかかりそうだった。途中で引っかかった場合回収するのが困難になるのでこれからは勢いをつけて回収する。

感想

全体を通して早くしなければと焦ってしまい行動が疎かになってしまうことがあるので焦らず急ぐようにする。夏合宿では今まで体験したことのない刺激を得ることができてよかった。これからの活動で今回の経験を活かしていきたい。

会2

江田

・行動

夕方まで行動していると脚に疲労がたまってくる。やはり体力だ、体力はすべてを解決する。

レーションのオートミール+ピーナッツバターは悪くない。

・生活

基本一年生にやってもらったため特にはないが、米炊きは奥が深いということを学んだ。

・登攀

リードをすることはなかったが、他人のロープ出しからでも学ぶことは多い。特に上半縦走での塩谷さんガチモードのロープ出しは凄まじかったとしか言いようがない。セオリーも重要だが、その場でいかに工夫できるかということが本番でとても役に立つと分かった。リードをしていないにも関わらずとてもいい経験になった。

武田

武田篤志

係

特になし

行動

一年生を見るという意識が足りなかったと思う。初日と最終日は比較的に見れていたと思うが特に登攀からの帰りなどは気が緩みがちで見切れていなかったと考える。そしてスパッツを忘れたことも反省である。

生活

気が抜けたときに片手で鍋持ちをしていた時があった。その影響で一年生もたまに片手で行っていた時もあったのでしっかりしていきたい。前半は一年生の生活がうまくできていなかったが指導を通して改善されたと感じた。

登攀

今回本格的なアルパインのリードが初めてであったこともあり多くの反省が考えられる。まずそもそものリードの段取りが悪いということがあげられる。次のピッチにつなげるために今何をしないといけないか、その一個一個のやるべきことを明確にし、素早く正確に行うようにならなければならぬと感じた。終了点も一つ浮き気味のピナクルからとってしまった。自分は大丈夫だと思ったが叩いてみると少し浮いている音が聞き取れた。よってもっとより良い場所があったと思う。そして終了点を作るときにバックアップを取るようになっていたが、バックアップを取るくらいであればそこから支点を取ったほうがよかったというのも学びである。

中田

夏合宿反省文

気象係

真砂沢ロッジでは、ラジオの周波数が合わなかったため書けなかったが、北方稜線では繋がり、1年生の天気図を見て教えることができた。

行動

はしご谷という危ない道で、自分のやりたいことと会1を見ることの両方が手に負えないシーンがあり、難しさをかんじた。スマホや行動手、山頂でフルグラを落とすなどぼろぼろいろんなものを落としてしまった。クライミング中は致命的なミスになるから、途中でチャック付きのズボンにするなど工夫したが、さらに考えて対策したい。

登攀

剣稜会で初めてマルチのリードをしたが焦ってうまくいかなかった。カムのリングにスリングがかかっていたのは正直記憶がない。周りも全然見えていなくて、後から見ると、あそこにナチプロを決めておいたらよかったなと思うところや、アルヌンを伸ばしてロープの流れを変えたらよかったところなど、後ろをみると反省点がたくさんあった。終了点の強度に関する知識も足りず、人工物に頼りすぎる傾向があった。木村さんに見ていただきながら、わからないなりに一生懸命にやってみてできないところが分かったり経験が積めたりしたのでよかった。もっとうまくリードができるようになりたい。ハッ峰上半縦走では、会2なのに終了点とかを作っただけで、田中さんや塩谷さんに連れてってもらった形になってしまった。臨機応変にロープをそのまま次のピッチまで畳まず伸ばして時短するなど新たな知識を得ることもできたが、もっといろいろできることがあった気がした。

生活

今回の合宿では、遅くに帰ってくるパーティーもあり、夜ご飯が遅くなってしまうことがあった。次の日に影響が出るから、先に食べて、後の隊がすぐに食べられるよう準備しておくなどもっと気遣えることがあったと思う。ラーメン分けで木村さんのマットにこぼしてしまっ

た。スピードも重要だが、丁寧に早くしたい。

感想

私は、冬に怪我をしてしまい、今回の合宿に間に合わせることを目標に怪我のリハビリを頑張ってきた。長い行動時間で怪我をした左膝に違和感を覚えることもあったが、無事終わることができた。まだまだ本調子ではないがひとまず復帰できて安堵の気持ちである。課題も多いがこれから頑張りたい。

橋本

医療係

初日はある程度一年生の体調を聞いていたが隊わけをした登攀日は他の隊のことはあまり聞いていなかった。もっと他の隊の体調の情報を聞くべきだった。雪溪から落ちた木村さんのケアも足りなかった。あとボイゾンリムーバーを計画に書いていたが個人の判断で持っていかなかったのも反省である。全体で確認してから医療計画を変更すべきだった。

行動

初日は会2として一年生の歩きを見るのが甘かったと感じる。序盤は自分は浦本の後ろについており、浦本が坂で足をつまずかせ、こけることを止めることができなかった。より危険な箇所であったら大きな事故に繋がっていたと思う。その後からより慎重にスポットに入るようにしていたが、最初からそうしていたらこのようなことは起こらなかったと感じる。

剣沢や長次郎での雪溪の乗り方やルーフア

イがひどかったり忘れていることが多かった。何度も通っているので覚えるべきであり、覚えなくても目印をつけるなどの工夫をするべきだった。ルーフアイに関しては、目の前しか見ていない傾向が強かった。視野を広く持って行動することを心がけたい。アイゼンの装着が遅いことも反省である。一年生のアイゼンのチェックが杜撰であった。アイゼンの知識があまりなく、何がいけないのか理解できていなかった。今回知った知識を冬にも活かしたい。

生活

全体を通してエッセン準備への参加が消極的であった。一年生の様子を見るという役目を果たしきれていなかったのは反省である。朝のアラームをかけていなかったのもプレ火係に任せっきりでよくなかった。

登攀

自分がリードした魚津高ルートの1p目の終了点がひどかった。残置のハーケンで取ったが顎の向きが良いものや新しいものが近くにあったのに見落としていた。他にも中間支点のカムの設置が最悪なことが2回あった。一つは外にひらけているところにきめていたものともう一つはカムの端をナッツのようにきめていたものだ。また、源次郎尾根での終了点の設置にも20分かかり回収に10分かかってしまった。他の人の作る支点を参考にしたり、自分のできることを最大限に活かすべきだった。色々なところをリードしてみてより多くのルートを経験する面白みも見えてきた気がする。

会3
木村

今夏合宿では、黒木さんが途中下山するため山行リーダーを担った。OBの塩谷さんにはご同行いただいたが、あくまで現役のみで運営することを目標とし、事前に上級生だけでプレ夏合宿も実施。万全の準備の上臨んだ。結果として、夏合宿の運営という点に関しては、十分現役のみで回すことができたと言えるだろう。しかし、一年生を連れていくこと、そして、雪渓処理の判断の難しさを痛感し、まだまだ塩谷さんには遠く及ばないと思い知らされた。

今年の夏合宿は従来の形を踏襲し、0日目として黒部ダム駅に前入りしたが、このスタイルは誰も経験しておらず、現役部員としては新たな試みだった。大所帯でビバークするのは難しく、事前の下調べを十分に行うべきだった。来年は予め全員で意思統一をして動き、入山時間についても工夫したい。

今山行での個人的な収穫としては、雪渓処理の難しさを身に染みて感じられたことである。登攀初日に劔沢、長次郎谷の雪渓を見た時は、夏合宿が終わるまでの一週間で崩壊するとは想定しておらず、その融雪・崩壊速度は予想を大きく上回った。その点一週間続けて同じ雪渓を観察できたことは良い経験になった。しかし、雪渓状態の見積りの甘さから、山行リーダーであるにも関わらず、雪渓の崩壊に巻き込まれ、危うく大惨事になるところであった。

登攀三日目は全員で熊の岩まで上がり、そこから各隊に散る予定であった。自分が先頭を歩いていたが、長次郎谷出

合から雪溪に乗る箇所が、前日までは無かった4-5mほど中央で崩壊していた。そこで、後続に待機してもらい、自分が偵察に出た。一番はじめての雪溪に乗り上げる地点を下から覗き、雪溪の厚さに問題がなかったことから、3mほど側壁を歩いてから雪溪に乗った。2歩目を踏み出したところで、雪溪が崩壊し巻き込まれた。一瞬のことで定かではないが、おそらく足を踏み出した振動で、3mほど前方が割れ、5m前後の雪溪の塊ごと横に倒れたものと思われる。雪溪を踏み抜く想定はあったが、雪溪中央の架橋箇所が崩壊し、端だけ残った雪溪が倒れる想定は全く無かった。また、剣沢雪溪も初日は上部からナムの滝まで問題なく通行できたが、合宿後半には大きく崩落し、平蔵谷出合から少し下流で夏道を使わなければいけなかった。前日まで歩いていた雪溪があそこまで大きく崩壊するとは思っても寄らなかった。雪溪が使えなくなるかもしれないという頭がなかったことで、一年生全員に剣稜会の登攀を経験させてあげられなかったことは、山行リーダーとして責任を感じた。登攀ルートが多くある中で、先に優先順位・コンディションに左右されるか否かについて決めておくべきだった。具体的にはいつでも取り付ける源次郎尾根、南壁A2は後回しにしても問題なかった。

隊全体の方針決めとしても山行リーダーとして不手際が多かった。まず、初日の歩荷の分隊は始めから行っておけばよかった。また、一年生のクライミング・歩行能力を恣意的に判断し、このルート

しか行けないだろうと決め付けてしまった。本チャンは落ちてはいけないと言いつつも、どのようにすれば一年生を連れて行けるかを考えるのが、上級生としてすべきことであった。また、週末山行などでは会2が一年生の面倒見や隊の判断を担うが、本チャンでの会3会2の役割分担が曖昧だった。その技量に学年の差はないと思うが、雪溪やロープ出しの判断については、会3が率先して行うべきだった。

SACに入って初めて、真砂沢ロッジにベースを張り、長次郎谷を上がって八ツ峰に登攀するという従来の夏合宿の形を実現することができた。これは今年度の夏合宿としては一つ成功したと言えるだろう。会全体として、剣岳周辺の見聞は高まり、平蔵谷や小窓雪溪、三ノ窓雪溪も使えるといった発見もあった。来年度のSACがどのような体制になっているかは分からないが、各々の技量も上げ、今年度上がった課題解決を図りながら、来年度はより充実した夏合宿を実現したい。

小嶋

まず、生活面ではこれといった反省は思いつかない。それこそが山岳会員としての反省点といえるのではなかろうか。次に、行動面では大きな反省がある。落石をしてしまったのだ。なんとも恥ずかしい話である。しかも落石の懸念は念頭にありながらも、それを避けることができなかった。あの瞬間の焦りは今でも脳裏に刻まれている。登攀面については、ロ

ープを出すか否かの判断を適切に行えなかったことが反省点だ。私は不要と判断し、会一も素早く通過できるだろうと思ったのだが、誤りだった。結局は他のメンバーの提案でロープを用いたのだが、そこでの様子を見て自身の判断の甘さを知った。私の反省すべてに共通することとして、経験不足が挙げられる。毎週の山行を貴重な機会と考えて、残り少ない山岳会員としての日々を過ごしていきたい。

田中

今年度の夏合宿はOBの方に手伝っていただく、最後の合宿であった。現役だけで自立した合宿を行えるように試行錯誤した合宿であったが、未だに課題が残っているのが実際のところである。反省を挙げ、次回以降の合宿の糧とする。

まず登攀の反省を挙げる。最大の反省点は登攀のスピードであったように思う。私の登攀技術では、支点構築に時間を要しすぎるうえに、ロープの出し方に無駄が多くあった。支点構築とロープの出し方の双方において、マルチルートの経験不足が原因である。またロープの出し方については画一的なロープ出ししかできず、岩場に適したロープ出しができていないということが分かった。マルチルートなど手軽に行ける岩場で経験を積みつつ、岩場ごとに適したロープ出しを考え続ける。登攀のスピードは行動全体の余裕につながるため、できる限り高めていきたい。

次に行動の反省を挙げる。会3として臨んだ夏合宿であったが、あまり全体への指示出しを行えていなかったように思う。会

3の仕事は全体に指示を出し、まとめることである。これができないようでは会3とは言えないのではないか。自身の義務と責任を理解し、果たせるように努める。また会1や会2に対する配慮も足りていなかった。初めてのアルパインに挑む会1、初めてのアルパインでのリードに挑む会2、気を配るべき点は多くあったのではないかと今になって思う。自分の実力を高めて他人に気を配る余裕を作る、常に意識を向けておくことが必要であると考えた。北方稜線では自身のルーファイ技術の未熟さも思い知らされた。ガレ場や岩稜帯でどの踏みあとを信じるか、その判断技術が特に問題であったように思う。自信が苦手意識から避けている技術は、早く克服して習得すべきだろう。

次に生活の反省を挙げる。行動が厳しいため生活が緩くなってしまった。これは今年の生活における最大の反省であり、昨年と共通するものである。常に厳しくある必要はないものの、生活を緩くしてしまうと翌日の行動に支障をきたす場合もある。おやつやエッセンを楽しむ時間以外は、適度な緊張感をもって生活を進めるべきである。来年は同じ反省が上がらないように、率先して雰囲気を作っていく。

最後にエッセン係の反省を挙げる。最終日の米が5人分不足していた。チェック時のミスが原因である。次回はエッセン係が責任をもって、全てのズタ袋を確認する必要があるのではないだろうか。

様々な反省が挙げたものの、今後現役のみで合宿を行う準備はできたのではないかと思う。これまでの経験を活かし来年度こそは現役のみ、当然だがアクシデントなく合宿を行いたい。

日比

・行動

雪渓歩きの先頭を会2に任せすぎた。合宿後半は前半よりもかなり雪渓が薄くなってきて危険な状態であったため、雪渓が明らかに安定している場所やピンクテープがある場所、乗り口や降り口が明確な場所ならいいと思うが、それ以外は安易に経験を積むためと言って先頭を歩かせるのはよくないと思った。

・登攀

今回はA2、源次郎尾根、Dフェース富山大ルートを登攀した。A2はB.C.に戻ってくる時間が遅くなりすぎてしまった。歩荷した翌日に会1をA2に連れて行ったため雪渓歩きに時間がかかりすぎてしまった。Dフェース富山大については終了点構築に時間をかけすぎてしまった。雑で安心できない終了点を作るよりは時間をかけて確実な終了点を作った方が良いが、それでも自分の場合登攀している時間よりも終了点構築の時間がかかっているため確実な終了点を構築できるようにしたい。また、2p目に進みすぎて終了点を残置に頼りすぎてしまった。残置は基本的に信用できないものなので、まず進みすぎないように気を付け、ナチュプロなど信頼できる支点で終了点を構築する。

・リーダー会

登攀初日にB.C.へ戻ってくるリミットをリーダー会で決めていなかったために、リーダー部員全員が揃う時刻が遅く、エッセンも遅くなり、リーダー会はB.C.に先についたメンバーが話したことを後から来たメンバーに伝える程度になってしまった。確かに計画書上の最終下山時刻は下山日に設定

されているが、今回のようにリミットを決めないと次の日の登攀にも影響が出てしまうし、いつまで待てばよいのか不明確であるためもし遭難が起きていた場合初動が遅れてしまう。そのため登攀日は何時以降連絡が取れない場合は事故が起きたものとするような時間を定めるとよいと思う。

今回は登攀3日目に長次郎の雪渓が割れてVI峰フェースに取り付けなくなってしまう。会1のVI峰登攀は3日目を降を考えていたため、今合宿ほとんどの会1がVI峰フェースに行けなかった。源次郎尾根やA2などは後回しにして雪渓の状況によっては取りつけなくなるVI峰フェースを優先的に登攀すべきであった。

・感想

ようやく現役主体で登攀できるようになってきたが、まだまだ経験は浅いし、知識もまだまだ足りないし、支点構築技術や登攀能力もまだ足りていない。毎週の岩トレや週末山行で一つずつ着実にレベルアップしていきたい。

会4

黒木

会4になって、でも3回目の夏合宿が終わった。個人的には去年は来れなかった剣に今年は登れて、現役みんなで充実した登攀をできたことはうれしく思う。4年目になっても多くの学びと悩みがあった。

登攀

現役の人数が増えてきた中で、全員と登攀に行ったことがあるというわけにはいかない。そんな中で、メンバーの技量を見極め、ロープを出すかどうかの判断とその後の動きをスムーズに行うことが難しかった。また、安全と時間の管理のバランスが

難しいと思った。今合宿でも、会1との行動でうまく時間管理ができず、長時間行動になってしまうことがあった。メンバーの様子を見て、ロープを出す、間隔をあける、一本を長くするなどの判断をするのも下手だった。私が全体を見て指示を出してしまい、会2が判断をする機会を奪ってしまったようにも思う。

行動 特になし

生活 特になし

椎屋

夏合宿の反省について。今合宿最大の反省は雪溪を踏み抜いたことである。長次郎谷に十字のクラックが走っており、その付近、左岸側での出来事である。踏み抜いた位置の上部10m辺りに穴が空いており、下部30mほどあたりから岸に対しての雪溪浮きが無くなっているという状況であった。今回は運よく左足だけが落ち、脱出の際も雪溪が割れる事はなかったので事無きを得たが、あと少しでも状況が悪ければ直下の沢へ落下していた事になる。危機意識の欠落の危うさを改めて実感した。思い返してみれば、今まで雪溪通過の際は神経質なほど辺りを見渡して歩くラインを考慮していたが、この時は危険箇所であるという意識もなく、左岸に乗り上げるポイントまでを直線的に繋ぐという歩き方をしていた。完全に慢心である。危険度の増す冬シーズンに向けて今一度気を引き締めたい。その他としては、フォローで登っている際にリードが設置したプロテクションについて問題がある箇所を写真に撮っておけば伝えやすかったであろうという点である。

さして難しくないルートで余裕があったが、その余裕を活かしきれていなかった。また、簡単なルートでプロテクションの取り方がかなり雑になっていた。万が一の保険であるプロテクションを軽視する事は先の危機意識の欠落に通ずるものがある。登攀についても向き合い方を考えたい。生活、行動を総合してみると、会4の在り方を未だに確立しきれていない事が挙げられる。基本は手出しをしない、というスタンスは隊における自身の存在意義が薄くなるが、過度な介入は後進の成長を妨げかねない。この辺りのバランスをあと半年の間に確立させ、会4として、隊として有意義な山行を送りたい。以上をもって夏合宿の反省とする。

相馬岳北稜

日程：4/9（水）

メンバー：

会3 日比、木村 L

記録：

1 日目 天気 晴

06:25 相馬岳北稜取り付き

07:30 P6

08:50 P12

09:50 相馬岳

10:10 発

11:20 国民宿舎裏妙義

所感：

P5,P11 は少し手前から巻くことで、懸垂をせずに通過できた。P7 の登りは最後の泥壁で浮いた木の根を掴む悪い箇所手前に綺麗なペツルが打ち込まれている。P12 の登りは足場、手ともに微妙な感じ。

全体的に稜線歩きは記録で見るより幅もあったし、そこまで切れている感じもしなかった。また、アップダウンもそこまで激しくなかった。

12 時間行動を想定も、5 時間で終わることができて良かった。大学からのアクセスも良く、取り付きも 0 秒。程よく整備もされており、初心者のアルパイン練習にちょうど良いと感じた。



木戸壁、筆頭岩、西大星岳北稜

日程：4/26（土）～4/27（日）

メンバー：

会3 田中、木村 L

会2 橋本

記録：

1 日目 天気 晴

西大星岳北稜

06:05 出発

07:00 712mP

09:40 西大星岳

10:00 出発

10:55 登山道復帰

11:45 鍵沢登山口

筆頭岩

12:30 さくらの里駐車場

13:00 取り付き

14:45 筆頭岩

15:35 懸垂終了

15:45 道路

2 日目 天気 晴

木戸壁

05:10 国民宿舎裏妙義

05:45 取り付き

10:30 木戸の頭

10:55 懸垂（引き返す）

11:50 木戸前ルンゼの看板

14:05 取り付き（懸垂終了）

14:35 駐車場

所感：

西大星岳稜は相馬岳北稜よりもピンテも少なく、ルーフアイの練習に良かった。大きい一枚岩の登攀箇所は岩の下を一人通れるトンネルを潜ることもできて面白かった。山頂からの下山は地形図にはない道だが懸垂2回後は谷筋を下るだけで明瞭。

筆頭岩はリングが多少ある程度で、基本ナチプロ支点だが、クライミングは容易で展望も良く、初めてのナチプロマルチには最適。

木戸壁もボルトがあり過ぎて適度にスルーする必要があるほどで、初マルチ向け。木戸の頭まではロケーションは抜群だが、プロテクションもあまり取れず、土が混じって悪い箇所もある。また、懸垂は木戸前ルンゼの予定が、そこに至るまでの道が複雑で、誤ったルートを下ってしまった。懸垂→トラバース→ルンゼを直上→懸垂→斜面を直上→懸垂で木戸前ルンゼに入るのが正式だがルーフアイが難しい。



大滝山

日程：4/29（火）

メンバー：

会4 黒木(L)

会3 田中、森

会2 江田

記録：

1日目 雪のち晴れ

4:20 展望台駐車場

5:25 冷池登山口

7:05 鍋冠山

9:15 稜線分岐

9:20 大滝山 9:40

9:45 稜線分岐

11:10 鍋冠山

12:20 冷池登山口

14:20 展望台駐車場

所感：

今年度も島々谷の登山道が使えないため、新人合宿の入山ルートを探るべく鍋冠経由で蝶ヶ岳に登頂するルート歩きを行った。ここ数年ではかなりの大雪となった2024の冬。相変わらず春が来るのは早く、気温も高くなっているが、予想以上に

融雪が進んでいなかった。今山行当日は、気温が低く、行動中に降雪があった。前日にも 5cm 弱の降雪があり、硬い雪面に 5cm 弱の新雪が積もっていた。1900m 付近から残雪があり、大滝山に登る急登が始まるあたりでピッケルを持った。大滝山の稜線に出る直下で、以前新人合宿でフィックスを張ったという記録があった箇所だろうと思える部分があったが、上級生だけならロープは全くいらなかった。大滝山山荘の様子だけ偵察し、今年度の新人合宿でこのルートを使用するのは、残雪状況的に無理だろうと判断し、下山した。下山は大滝山から斜面を下りきるまで、アイゼンを履いた。あまり気温は高くならず、雪がぐずぐずになる前に下山できた。登山口から駐車場までの林道沿いは、フキノトウが良い時期だった。タラの芽はあと 1 週間といったところだろう。

個人的には、雪の残り具合にもよると思うが、徳合越えよりも登りが長く感じ、会 1 が歩荷しての通過にはかなりの時間がかかると思った。また、今回は行かなかったが、大滝山から蝶ヶ岳は見えているがとても遠く感じた。新人合宿で使用するなら、事前に残雪状況を見て、上級生と会 1 の人数比を考えた上で、使用するか判断した方が良いと感じた。



六白山～霞沢岳

日程：4/29（火）

メンバー：

会 3 金子、日比、木村 L

記録：

天気 晴

06:35 上高地バスターミナル

06:45 中畠沢取り付き

08:15 稜線

09:45 六白山

11:30 K1 ピーク

12:15 霞沢岳

14:50 砂防事務所

所感：

経費削減とバスの時間を気にしなくていいことから、自転車での上高地入山を試みた。中畠沢は取り付きから直ぐの砂防ダムを越えた辺りからアイゼン歩行が可能で、クラックなどもなく、順調に高度を上げることができた。積雪が豊富で、稜上でのハイマツ漕ぎはなかった。霞沢岳への稜線は時より東斜面をトラバースした。下山路の霞沢西尾根は冬の懸垂箇所は土が出ていて歩きで通過できた。



会津朝日-駒縦走

日程：5/3（土）～5/4（日）

メンバー：

会 4 椎屋

会 3 田中(L)、日比

会 2 江田、武田

記録：

1 日目 晴れ

9:05 いわなの里

9:15 赤倉沢登山口

10:05 出合

12:15 叶の高手

12:55 朝日岳避難小屋

14:00 会津朝日岳

15:15 鋸刃 1610mP

16:40 1554mP

17:50 1451mP

18:00 天場（1451mP1 つ先のピーク）

2 日目 雨

6:00 起床

8:15 発

10:00 1554mP

10:45 鋸刃 1610mP

11:40 会津朝日岳の肩

12:00～13:40 朝日岳避難小屋

14:10 叶の高手

14:45 出合

15:25 赤倉沢登山口

15:40 いわなの里

所感：

GW 山行、残雪を求めて我々は東北の奥地へ向かった。8 時間車に揺られ辿り着いた登山口、未だ溶けきらぬ雪を残した山々がこの先の過酷な行程を予感させた。ということもなく、残雪は残雪、アイゼンさえあればソクサク高度を上げられる。葉を残した針葉樹もなく、明るい開けた斜面を登って行った。隊全員にロングドライブの疲労が見えるが、なんとか会津朝日岳に登頂。アルプスでは見られない地平線まで続く幾重もの山の連なりから、東北の山深さを体感した。しかしこの先が本番である。この先には登山道などなく、あるのは藪と岩のみである。1451m まで藪と岩と格闘を続け、雪渓上にテントを張れる箇所を天場とした。テントを張って装備を確認していると... 白ガスないやん

間抜けかつ致命的すぎる装備不良を受け、敗退を余儀なくされた我々は往路下山を敢行した。翌朝、春先の冷たい雨に打たれつつ藪と岩と格闘。しかし、上達しているのか昨日よりスムーズに通過できた。その後も雨に打たれながら来た道を帰る。これほど虚しいことは無いだろう。身も心も懐具合も冷え切る GW 山行となった。松本まで 8 時間のドライブが待っている。



↑会津朝日登頂。この先判明する大失態を彼らはまだ知らない...

谷川連峰縦走

日程： 5/3 (土) ～ 5/5 (月)

メンバー：

会3 森 (L)、金子、木村、小嶋

会2 橋本

記録：

1日目 晴れ

7:55 白毛門登山口

10:45 白毛門

11:40 笠ヶ岳

12:50 朝日岳

14:10 清水峠

14:40 清水峠発

15:45 セツ小屋山

15:55 1580m コル

2日目 曇りのち雨

3:30 起床

5:05 発

5:10 蓬ヒュッテ

5:50 武能岳

7:30 茂倉岳

7:55 一ノ倉岳

9:05 オキノ耳

9:15 トマノ耳

9:50 トマノ耳発

10:40 オジカ沢避難小屋

11:20 大障子避難小屋

12:35 万太郎山

12:55 越路避難小屋

3日目 晴れ

4:00 起床

7:10 発

8:00 エビス大黒の頭

8:30 エビス大黒避難小屋

8:55 仙ノ倉山

9:25 平標山

9:45 平標山発

12:20 渡渉点

13:30 群馬大ヒュッテ

14:50 土樽駅

所感：

当初は4日かかる予定であったが、予定よりも早く進むことができたので、3日で行程を通すことができた。想定よりも雪が少なく、特に谷川岳～平標山の間は稜線上にほとんど雪がなく、快適に通行することができた。初日の白毛門直下や笠ヶ岳直下は雪面にクラックが入っている箇所があり、慎重に通過した。2日目は全体を通して道が細い場所や崩壊している場所が多いため、集中を切らずに歩き続けることが重要だと感じた。3日目は仙ノ倉谷で渡渉をする必要があっ

たが、想定よりも水の量が多く苦勞したため、残雪期にここを通行する場合は注意が必要だ。食事は3日間通して非常に美味しく、楽しい山行であった。



御嶽摩利支天山

日程：5/12（月）

メンバー：

会4 黒木(L)

会2 江田

記録：雨のち曇り

6:15 開田口登山口

10:30 三ノ池避難小屋 10:45

11:45 摩利支天乗越

12:10 摩利支天山 12:25

12:40 摩利支天乗越

12:55 三ノ池避難小屋

15:00 開田口登山口

所感：

登山口に予定通りに着くも、小ぶりの雨。最初は樹林だから頑張るかと思合を入れなおし、雨具上下で入山。ずっと天気は微妙だったが、計画通り行けた。最後の30分くらいは、岩稜をアイゼンで歩かな

ければいけない感じで、アイゼン歩きの練習には良いと思った。下山は雪質が良かったため、かなり早く進んだ。今回のルートは、谷地形を通ったり、斜面の長いトラバースしたりするところもあったので、時期と積雪状況はよく考える必要があると思った。



爺ヶ岳鹿島槍ヶ岳

日程： 6/7（土）～ 6/8（日）

メンバー：

会3 日比光彦

会2 武田篤志、江田啓輔

会1 江川晴陽、高見颯太、谷口平良

記録：

1日目 晴れ

5:15 出発

6:10 西俣出合

8:45 高千穂平

11:00 冷池乗越

11:20 冷池山荘

12:00 冷池山荘出発

12:55 布引山

13:40 鹿島槍ヶ岳

14:00 出発

14:30 布引山
15:20 冷池山荘

2 日目 晴れ

4:00 起床
5:10 出発
5:25 冷池乗越
6:05 爺ヶ岳
6:25 出発
7:00 冷池乗越
8:43 高千穂
10:35 西俣出合
11:20 下山

所感：高見が滑落しかけるヒヤリハットがあったが全体を通して天気が良く良い山行となった。ただ週末山行の第一週、第二週あたりは残雪がみられるため北アルプスを避けたほうが良いように感じた。



燕蝶

日程：6/7~6/8

メンバー：

会 3 木村、小嶋
会 2 橋本 L
会 1 伊藤、山下

記録：

1 日目 晴れ
5:30 有明神社駐車場
7:00 バス停
7:50 中房温泉
10:30 合戦小屋
12:05 燕山荘
12:40 燕岳
13:15 燕山荘
17:50 大天井岳
18:15 大天荘

2 日目 晴れ

4:00 起床
5:05 発
7:30 常念小屋
7:40 発
8:50 常念岳

9:25 発
10:20 前常念
14:40 三俣登山口
15:10 三俣第二駐車場

所感：

中房の林道が崩壊していたため work & bus で中房温泉まで行った。

ちょっとハードな内容で時間がかかったためエスケープ下山。終始天気良かったのが何よりもの救い。初の軽トラはなかなか快適らしい。

鎌崩周回

日程：6/7（土）～6/8（日）

メンバー：

会 4 椎屋

会 3 金子、田中(L)、森

記録：

1 日目 晴れのち曇り
8:15 林道仮ゲート発
9:15 林道ゲート
10:35 バラ谷登山口
13:15 バラ谷の頭
14:35 黒法師岳
15:15 等高尾根分岐
16:00 丸盆岳
18:20 鎌崩岳
19:00 鹿の平

2 日目 曇り時々雨

3:00 起床
4:25 発
4:45 不動岳
5:20～35 天場
7:30 六呂場峠
8:40 矢筈山
9:55 林道ゲート
11:10 林道仮ゲート

所感：

南ア深南部最難関との呼び声が高い鎌崩の通過を目的とした山行である。林道崩壊のため、本来のゲートより手前からスタートした。雪の残る北アとは異なって南ア深南部ともなると、早くも夏山の様相である。暑さに愚痴をこぼしながら標高を上げていった。バラ谷の頭の先の水場でキンキンに冷えた水に癒されつつ、釜崩へ縦走路を進む。笹に覆われている箇所があるものの、登山道は明瞭。3人の登山者ともすれ違うなど、深南部の人気山域たる所以を実感した()。丸盆岳を越えると釜崩のテリトリーに入る。脆くてスタンスも小さいトラバースなど本命の前から手強い。本命の釜崩は想像よりも長く、150mほどの長さにわたって脆いリッジが続いていた。最初の3mほどの恐ろしいクライムダウンに始まり、四足歩行で通過するほどのリッジが続く。比較的安定した岩を探しつつ、浮石でもマシなものを踏みつつ... クライミングとは異なる恐怖体験に冷や汗をかきながらも無事通過した。これまで感じたことのないほどの「生」を実感し、み

なで喜びを分かち合った。鹿の平の天場は快適。

2日目はほぼ下山するのみである。ルーフアイも特に難しい箇所もなく、適度にピンテもある快適な下降路であった。

今回通過した釜崩だが、距離が長くロープ出しが実質不可能ということから、SACで行くには難しいタイプの危険箇所であったように思う。隊全員に確実な歩行技術が求められるだろう。



荒船山

日程：6/9（月）

メンバー：

会4 黒木

会2 江田啓輔(CL)

記録：

1日目 天気 晴

7:45 駐車場

9:00 鱸岩見晴し台

9:40 経塚山山頂

11:00 駐車場

所感：

昨年の週末山行で八全に行った際、蓼科山から見えた明らかに不自然な山の形を見て、ありゃなんだ？...と思ったことが今山行のきっかけである。ちなみに山行リーダー1発目だ。荒船山という名前にふさわしく、実際行ってみるとすごい迫力だ。同行した黒木さん曰く、行ったことない山域はこれだから面白いよね~とのこと。道は里山の雰囲気が続くが、不意に鱸岩の断崖絶壁が見えたり、人口壁のような岩壁があったりで、意外と面白い。鱸岩上に上がると一気に平らになり、本当に平らな岩の上に林が乗っかっているのだな~と思う。山頂にはクレヨンしんちゃんの絵があり埼玉出身の自分には熱いところだ。なぜしんちゃんのかはググってください。鱸岩は脆そうだったけど登れたら気持ちいいだろうと思う。



小川山 屋根岩トラバース

日程：6/13（金）

メンバー：

会3 日比、木村 L

記録：

1 日目 天気 晴

06:35 駐車場

07:05 取り付き

07:40 一峰懸垂開始

08:05 2 峰

08:55 3 峰

10:45 4 峰

11:40 5 峰

12:35 6 峰

12:50 本峰

所感：

ROCK & SNOW を参考に、廻り目平キャンプ場へ向かう道中で一番顕著に見える屋根岩をトラバースした。所感としては懸垂が多くて、懸垂を素早く完了させるのには良いが、登攀要素は薄く、どのピークもショートルートで登ってしまうため、充実感は薄かった。

真砂岳以北縦走

日程：6/16（月）～6/20（金）

メンバー：

会 4 黒木(L)

会 3 木村

記録：

1 日目 曇り

15:30 七倉山荘

16:45 高瀬ダム

17:50 登山口

18:20 名無避難小屋

19:10 湯俣山荘

気温が高かったため、高瀬ダムの登りがきつかった。テン場に着いたらすぐヘッテ

ンが必要なほどであった。

2 日目 晴れ

4:00 起床

偵察ののち沈殿

下調べ不足で、晴嵐荘への渡渉点が分からず、前日までの降水もあり増水しているのだろうか、偵察をしながら沈殿した。渡渉点のワイヤーに、滑車がついていないように見えたため、他のポイントから渡渉できないか偵察をした。夜に最後の偵察に行った際に、ワイヤーの対岸側に滑車がついていることに気づき、翌日朝イチで渡った。

3 日目 晴れ

3:00 起床

3:55 発

4:20 渡渉完了

5:00 晴嵐荘発

7:15 湯俣岳

9:25 南真砂岳分岐

11:25 真砂岳分岐

12:10 野口五郎岳 12:30

12:40 野口五郎小屋

15:00 烏帽子岳

渡渉は、ハーネスでワイヤーにぶら下がりながら渡った。ガッシャーは別で渡らせた。水場がないから水を木村が歩荷し、黒木は久々の縦走だったため、ペースは上がらなかった。南真砂岳の直下のトラバース部分は、登山道がどこかわからないほど崩落していた。ロープを出すにも支点が取れなかったため、慎重に通過した。通過には時間がかかった。

4 日目 晴れ

4:00 起床

8:05 発

9:55 南沢岳

10:55 南沢乗越

12:00 不動岳 12:25

14:35 船窪第2ピーク

16:30 船窪岳

16:50 船窪乗越

17:45 船窪小屋テンバ

今縦走一番の悪場通過。黒木のペースが上がらず、時々止まりながら進んだ。崩落している箇所や、ロープが切れている箇所があり、怖かった。虫が多かった。シラネアオイがたくさん咲いていた。

5日目 晴れ

5:00 起床

6:05 発

6:25 船窪小屋

9:40 七倉山荘

計画ではもっと北上する予定だったが、進みが遅かったため、ここで下山することにした。下界に近づけば近づくほど、気温が上がって、しんどかった。



頸城山塊 妙高～焼山

日程：6/28（土）～6/29（日）

メンバー：

会3 森

会2 江田(CL)

会1 伊藤 高見 山下

記録：

1日目 天気 曇りのち晴

笹ヶ峰キャンプ場 6:05

富士見平 8:05

黒沢池ヒュッテ 9:05 発 9:20

大倉乗越 9:50

妙高山北峰 13:10

妙高山南峰 13:25

妙高山北峰 13:40

大倉乗越 16:00

黒沢池ヒュッテ 16:20 発 16:35

??? 17:20

2日目 天気 晴

起床 3:00

出発 4:05

茶臼山 4:45

高谷池ヒュッテ 5:30

天狗の庭 5:50

火打山 7:00

影火打山 7:20

胴抜ヶ切戸 9:10

焼山 11:20 発 11:40

泊岩周辺分岐 13:20

富士見峠 13:45

杉野沢橋 17:55

笹ヶ峰キャンプ場 19:20

所感：

なんで頸城山塊に行こうと思ったんだっけ。忘れまちた☆ 時期も相まって虫が多い。キバチやらシリアゲムシやらがフツーにいる。それらの生き物や湿地帯の景色はとても目の保養になる。日本海側なので残雪はとても豊富だがそのせいで大倉乗越からの斜面にべったりと雪がついており、ピストンにものすごい時間がかかった。黒沢池ヒュッテはオープン前の作業で人はいるが使えない。しかし湿地帯の川に残雪が残っており、そこを幕営地とした。残雪が多い×黒沢池ヒュッテがオープン前の時期という期間限定のテンバとなった。多分 2,3 日後には使えなくなっている感じだ。2 日目、危惧していた影火打周辺の登山道は片側が崩れており、雨だと少し嫌な感じ。胴抜ヶキレットは地形は平らであるが藪で、2～3 人テンがギリという感じ。新潟焼山の登りでも、雪壁を登らなければならず時間がかかる。焼山以降の下山道は残雪、渡渉、長い、という印象で、この時期に一年生を連れて行くにはタフな道だよ。でも全体を通して景色は良く、楽しかったヨ。山下君サヨウナラ…



燕蝶

日程：6/28~6/29

メンバー：

会 3 田中

会 2 橋本 L

会 1 谷口、浦本

記録：

1 日目 晴れ

600 中央アルプスこまっ子広場駐車場

800 北御所登山口

1255 伊那前岳

1325 宝剣山荘

1350 宝剣岳

1725 檜尾岳

1730 檜尾 T.S.

2 日目 晴れ

400 起床

500 発

625 熊沢岳

740 東川岳

800 木曽殿越

930 空木岳

945 発

1030 駒石

1140 ヨナ沢の頭

1215 小地獄

1225 大地獄

1320 マセナギ

1415 池山

1505 林道終点

所感：

天気が素晴らしく充実した内容。山ガールを拝むことは叶わなかったが宝剣中央陵を登るパーティがいた。こんなに多くの人に見られながら登るのはさぞかし気持ちいいだろうな。中檜尾避難小屋はおっさん8人にもう既に占拠されていた。檜尾小屋から五分の水場は雪溪に埋もれていたが雪溪の下沢から水を汲めることに成功。谷口は歩けていたが、レーションを食パン一斤しか持ってこなかった浦本はバテバテで歩きが非常に怖かった。

天狗山ダイレクト

日程：6/28（土）

メンバー：

会4 黒木(L)

会3 木村

会2 武田

記録：

1日目 晴れ

4:20 馬越峠

5:00 とりつき

8:50 天狗山 10:15

10:45 馬越峠

所感：

リードは基本木村で、簡単な数ピッチは武田がやった。他パーティーはいなくて、快適だった。歩き区間への切り替えのロープシステムもスムーズにいき、割と早めにトップアウトできた。山頂でゆっくりしてから下山した。



烏帽子左稜線

日程：6/29（日）

メンバー：

会4 黒木

会3 木村 L

会2 武田

記録：

天気 晴

03:55 金峰山荘

04:25 取り付け

11:25 TO

12:00 発

12:35 金峰山荘

所感：

人気ルートで混むとの前情報から、朝一で取り付いたため、終始他パーティーを気にせず快適だった。最後のチムニーに多少時間を要した以外は特段難しくはなかったが、綺麗な 5.7 のクラックのピッチを前のピッチから繋げたため、ロープが重くなってしんどかった。



槍ヶ岳～西穂高岳

日程：6/30（月）～7/2（水）

メンバー：

会4 黒木

会3 木村 L

記録：

1日目 天気 晴

07:30 新穂高温泉駐車場

08:30 穂高平小屋

10:50 滝谷避難小屋

11:35 槍平小屋

13:50 千丈沢分岐

14:40 テン場（2700m）

2日目 天気 曇

03:00 起床

04:10 発

04:55 飛騨乗越

05:10 大喰岳

05:50 中岳

06:40 南岳

07:00 南岳小屋

08:15 長谷川ピーク

09:55 北穂高小屋

10:40 発

12:40 涸沢岳

12:50 穂高岳山荘

13:30 発

14:00 奥穂高岳

15:20 ジャンダルム直下テン場

3日目 天気 雨

03:00 起床

04:10 発

05:00 天狗のコル

05:30 天狗の頭

06:15 間ノ岳

07:10 西穂高岳

08:10 西穂独標

08:50 西穂山荘

09:40 西穂ロープウェイ

所感：

黒木さんも木村も、ここまで穂高とは縁がなく、初めての槍穂だった。槍平小屋手前から暑すぎた。睡眠不足もありここから一気に消耗。槍平小屋で泊まる案も出たほど。千丈沢との分岐でテントを張るか悩んだ後南岳まで行こうと試みるも、バテすぎていて途中でテントを張ることにした。横尾本谷右俣、左俣、横尾尾根、大喰岳西尾根を横目に、いつか行ってみたいと思った。

穂高岳山荘で初めての小屋昼食をいただく。

1200円で中々の量だし、結構良かった。

当初は上高地下山で岳沢に定着予定だった

が、荒天のため西穂高から車のある新穂高温泉にエスケープした。



錫杖周回

日程：7/5（土）～7/6（日）

メンバー：

会 4 椎屋

会 3 田中(L)

記録：

1 日目 晴れのち雨

7:00 クリヤ谷登山口

7:40 穴滝

8:15 錫杖沢出合

9:05 錫杖岩舎

9:30～10:05 前衛フェース取付き

10:20 錫杖岩舎

12:50 天場（錫杖-大木場ノ辻最低コ
ル）

2 日目 晴れ

3:00 起床

4:45 発

6:35 錫杖岳

10:05 2281mP

12:10 クリヤノ頭

14:45 錫杖沢出合

15:15 穴滝

16:00 クリヤ谷登山口

所感：

本記録はクライミングではなくヤブの山行記録である。錫杖岳～クリヤノ頭へ続く稜線を繋げるという計画である。錫杖沢から稜線までの区間は記録も多い区間である。最低コル付近でやや不明瞭な箇所やササ藪が出る以外は快適な沢であった。最低コルはササに覆われており、天場には不適である。

錫杖岳手前の偽ピークからは記録の少ない区間に入る。シャクナゲやハイマツの藪に加えて地形図では確認できない細かいアップダウンや岩場が続く。直登か巻きか、岩を登るか木で登るか、歩きやすいルートを見出すのも一苦労であった。険しい稜線であったが、穂高を眺めながらの冒険的な登山は楽しかった。



笠双六

日程：7/5～7/6

メンバー：

会 3 金子、小嶋

会 2 橋本 L、中田

会 1 伊藤、高見、谷口

記録：

1 日目 晴れのち雨

650 駐車場

700 槍見館

745 穴滝

1425 クリヤの頭

1500 雷鳥岩

1535 テンバ雷鳥岩の先のコル 2430

2 日目 曇りのち晴れ

330 起

445 発

655 笠ヶ岳

720 発

735 笠ヶ岳山荘

810 抜戸岩

915 抜戸岳

1050 杓子平

1410 笠新道登山靴

1520 新穂高温泉

所感：

今回の山行は、計画書の提出期限が迫ったために、去年の計画を丸パクリしたという自分の怠惰から生まれたものである。そしてこの時期の一年生を連れていくということ、山行人数が多いこと、中田のリハビリ山行なことなどこの山行に不向きすぎる要素が盛りだくさん。改めて自分の怠惰を反省したい。

山行の内容としては一年生はもちろんよく滑り、自分もよく滑るという散々なもので、一年経ったくらいで自分の歩行技術は大して上達していないとわかった。錫杖との分岐以降は笹藪が続き、クリヤの頭以降は背丈くらいあるハイマツが体を押し戻すように邪魔をする。当然ペースは遅く、藪の中でモゾモゾしてる間に雨が降ってきた。それも結構なもので自分はめちゃくちゃ寒かった。雷鳥岩の先のコルに、テントを張ってくださいと言わんばかりの半分屋根のある石で整地されたテンバがあり、ありがたく使わせてもらう。しかし、4人用のテントがやっと入る大きさで4人テンに7人入るといいう苦行を強いられた。奴隷船を体感するという点ではいい体験だったが暑すぎて何度も起きるし、終始誰かが唸って厳しい戦いとなった。2日目は抜戸に9:00リミットで笠新道で降りると決め、9:15に抜戸に着いた。間に合っても双六までは時間的に不可能で、雪溪処理も面倒なので内心めちゃくちゃ嬉しかった。笠新道ということでサクサクと下山できると思ったらペースが遅すぎてだるかった。傾斜が急だが一つ一つのつづら折りが長く、もう使いたくない。

あと笹で手切った、二週間経っても傷が消えない。藪漕ぎをしたくないという思いは次の日には消え、来年のこの時期も藪漕ぎをしているかもしれない。

前穂北尾根、北穂東稜

日程：7/5（土）～7/6（日）

メンバー：

会3 木村 L

会2 江田

記録：

1 日目 天気 晴

05:35 上高地 BT

06:10 明神

06:45 徳沢

07:30 横尾

09:35 涸沢ヒュッテ

10:20 発

11:00 登山道離脱

11:30 稜線

12:35 北穂高小屋

13:10 発

14:05 土田さんお手助け

14:55 発

15:10 着

2 日目 天気 晴

02:00 起床

03:00 発

03:50 V・VI のコル

04:15 5 峰

04:55 4 峰

05:40 3 峰

06:00 前穂高岳

06:25 発

06:40 紀美子平

07:50 奥穂高岳

08:10 発

08:30 穂高岳山荘

09:25 テン場

10:15 発

11:55 横尾

12:50 徳沢

13:30 明神

14:10 上高地 BT

所感：

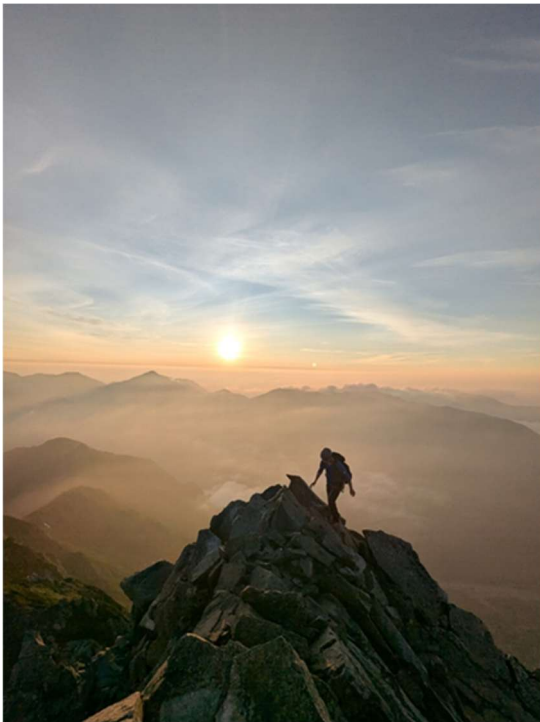
二度目の上高地チャリ入山。無料な上に今回のように行程が長くなる場合には時間に気にしなくて良い。生活具もありきつかったが、釜トンを超えれば快適。

北穂東稜までの取り付きは雪溪が上手いこと残っていて、かなり時間を短縮できた。

東稜は上級生であれば、ロープは不要。

北尾根は取り付きからアイゼンを装着。始め目当ての雪溪だと思ったものが、斜面の谷に溜まった雪だと判明し、5分ほど引き返してトラバース後に復帰。これは前日に北穂から偵察した時に、際立つ雪溪だけに注目し、目測を誤ってしまった。

北尾根は SAC としては昨年のリベンジでもあり、かなり気合を入れて慎重に臨んだ。4 峰はルーファイも難しく、何度か引き返す場面があった。3・4 のコルでガチャを肩にかけ、ロープも用意し、すぐに登攀に移れる準備を整えた。しかし、結果としてロープを出さずに終わってしまった。3 峰はトボを参照しつつ奥又側から登ったが、岩も安定していて易しいルートを選べば問題なかった。2 峰からクライムダウンで降り、早めに山頂に立つことができた。結果無事にリベンジを果たすことができて良かった。



阿弥陀南稜北稜

日程：7/11（金）

メンバー：

会4 黒木(L)

会2 中田

記録：

1日目 天気

5:50 船山十字路

6:10 林道南稜分岐

7:25 立場山

7:40 青ナギ

9:20 阿弥陀岳 9:40

10:00 中岳コル分岐

10:30 北稜とりつき

11:15 阿弥陀岳 11:35

12:55 美濃戸分岐(御小屋尾根上)

13:50 船山十字路

所感：

冬の下見ということで、南稜を登り、北稜の岩稜部分を登り、御小屋尾根で下りるという計画を組んだ。南稜に関しては、ロープを出さずに登ったが、冬の場合の支点を見ながら登れたので良かった。北稜は、2ピッチロープを出したが、夏行くには初めてのバリエーションなどに良いルートだと感じた。御小屋尾根は虫が多くて、長かった。



天狗山ダイレクト

日程：7/12（土）

メンバー：

会3 森 (L)、田中

会2 橋本

記録：

1日目 晴れ

6:40 馬越峠登山口
7:10 登山道離脱
7:30 取り付き
7:55 登攀開始
12:40 登攀終了
13:05 天狗山
13:45 天狗山発
14:05 馬越峠登山口

所感：

マルチの練習として、天狗山ダイレクトと男山ダイレクトの両方を一日で行く計画を立てたが、天狗山ダイレクトに予定より時間がかかったため、男山ダイレクトには行かずに下山した。天狗山ダイレクトは岩が脆い場所が多く、特に2ピッチ目の小ハングは緊張感があった。今回は先行パーティーがいたため時間がかかってしまったので、もう少し早く入山すべきだろう。メンバー3人全員がリードを経験でき、良い練習となった。

白馬朝日

日程 7/12(土)~7/13(日)

メンバー

会3 木村
会2 武田 中田(L)
会1 伊藤 浦本 高見

記録

1日目 晴れ
4:50 出発
7:35 白馬大池
9:10 小蓮華山

9:50 三国境
10:30 白馬岳
11:15 三国境
13:35 雪倉岳避難小屋

2日目 晴れ
3:05 出発
3:35 雪倉岳
7:25 朝日岳
8:10 吹上のコル
10:45 五輪高原
14:10 蓮華温泉

所感

登山道の開通日とあって、朝から駐車場がいっぱいだった。まだまだ雪渓が残っており、ピッケルを出すかどうかなど、スピードの面と安全管理での状況判断が大変だった。やはり、北アルプスの景色は綺麗で1年生には、山の美しさを感じてもらえたと思う。



餓鬼燕

日程：7/12（土）～7/13（日）

メンバー：

会3 日比
会2 江田(CL)
会1 阿部 谷口

記録：

1日目 天気 晴

5時05分 駐車場到着
5時15分 餓鬼岳登山口
5時30分 白沢三股登山口
6時10分 紅葉の滝
6時45分 魚止ノ滝
7時20分 最終水場
9時00分 大風山
10時20分 百曲り
11時00分 餓鬼岳小屋
11時05分 餓鬼岳山頂
11時50分 餓鬼岳発
13時45分 唐沢岳
14時05分 唐沢岳発
15時10分 餓鬼のコブ
16時10分 餓鬼岳山頂
16時20分 餓鬼岳発
16時25分 餓鬼岳小屋
16時45分 ???

2日目 天気 晴

3時起床
3時50分 発
4時30分 ケンズリ
5時50分 東沢岳
6時15分 東沢乗越
7時50分 奥北燕平
8時20分 北燕岳
8時30分 燕岳
8時50分 燕発
9時10分 燕山荘

9時40分 合戦小屋
10時00分 富士見ベンチ
10時15分 第三ベンチ
10時40分 第二ベンチ
10時50分 第一ベンチ
11時10分 中房登山口

所感：

景色最高！縦走日和でした。その代わりに暑さで水を消費し、餓鬼岳小屋で水を買ってしまいました(‘・ω・’) テンバはケンズリ手前の南東方向に延びた2560m付近。餓鬼から北燕平はちょっとダル長いが岩稜帯はまあ楽しい。燕前後は本当にいい景色だったによ。



大貧民ルート

日程：7/13

メンバー：

会3 田中、森
会2 橋本L

記録：

晴れ

9:00 金峰山荘
9:20 取付き

14:10 トップアウト

15:30 懸垂開始

16:00 懸垂終了

所感：

スラブとそのあとの岩を渡る区間が怖かったのと最初のクラックはわるい。チムニーは期待するほどのものではなかった。トップアウトまで時間がかかったのは森さんの調子が悪かったからである。

ブレ夏合宿 前入り隊

日程：7/17（木）～7/19（土）

メンバー：

会 4 黒木

会 3 日比、木村 L

記録：

1 日目 天気 雨

15:30 室堂

16:00 雷鳥沢

17:10 剣御前小舎

17:30 剣沢野営場管理所

2 日目 天気 晴

04:00 発

04:25 剣山荘

05:30 前劔

06:10 平蔵谷の科尔

07:00 劔岳（生活具デポ）

07:25 平蔵谷の科尔

07:50 南壁 A2 取り付け

09:50 TO

10:10 劔岳

10:35 発

11:05 長次郎左俣

12:15 左俣の科尔発

13:30 熊の岩 B.C.

3 日目 天気 晴

04:30 B.C.発

04:45 魚津高取り付け

06:55 TO

09:15 中大取り付け

10:45 TO

12:40 剣稜会取り付け

15:20 TO

15:50 発

17:05 V・VIの科尔

17:10 a フェース取り付け

17:20 テン場

所感：

長次郎谷左俣は上部のクラックが激しく空いており、科尔から 100m ほど下った地点で引き返し、右俣との間の斜面を下り、途中から右俣の雪渓に合流した。

全体でのブレ夏合宿に向けて、各ルート、TO からの下降について偵察することができた。登攀のグレード感や八ツ峰の概念について、初めての本チャンということもあり、有意義な前入りになった。



プレ夏合宿 後入り隊

日程：7/19（土）

メンバー：

会 4 椎屋

会 3 小嶋、田中 L

会 2 橋本、武田、江田、中田

記録：

天気 晴

07:30 黒部ダム駅

07:50 黒部川

08:30～45 内蔵助谷出合

10:40 内蔵助平分岐

12:00～40 ハシゴ谷乗越

13:30～14:05 剣沢

14:35 真砂沢ロッジ

15:25 長次郎谷出合

17:30 熊の岩

所感：

小嶋が体調不良により、内蔵助谷出合で引き返した。終始暑かった。

熊の岩は 5,6 パーティーがテントを張っていて、後入り隊は落石に気をつけて雪上に幕営した。

プレ夏合宿

日程：7/20（日）～7/21（月）

メンバー：

会 4 黒木、椎屋

会 3 日比、田中、木村 L

会 2 橋本、武田、江田、中田

記録：

1 日目 天気 晴

03:15 起床

04:15 発

04:20 剣稜会取り付け

（木村、田中、江田）

05:20 登攀開始

08:15 TO

08:45 発

09:40 V・VIの科尔

09:55 岩小屋

12:10 中大取り付け

（木村、田中、江田）

13:35 TO

14:40 岩小屋

15:35 中大取り付け

（木村、武田、中田）

16:50 TO

17:35 岩小屋

17:50 B.C.

04:40 中大取付き

(椎屋、日比、橋本)

06:40 TO

07:30 懸垂開始

08:00 岩小屋

11:00 魚津高取付き

(椎屋、橋本)

12:10 TO

13:50 懸垂開始

14:35 岩小屋

15:40 熊野岩

05:00 魚津高取り付き

(黒木、武田、中田)

07:00 TO

07:30 懸垂開始

07:55 V・VIの科尔

08:15 岩小屋

11:00 剣稜会取り付き

(黒木、武田、中田)

13:50 TO

14:50 魚津高取り付き

(田中、日比、江田)

16:20 TO

17:55 熊の岩

2日目 天気 晴

02:00 起床

03:10 発

04:05 長次郎谷出合

04:25 真砂沢ロッジ

05:15 劔沢架橋

06:10 ハシゴ谷乗越

07:40 内蔵助平出合

09:20 内蔵助谷出合

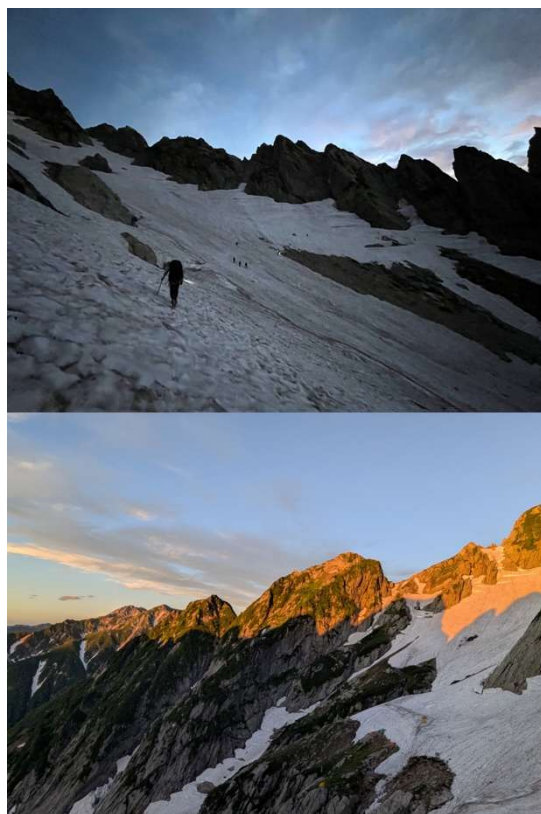
10:10 黒部川架橋

10:55 黒部ダム駅

所感：

ほとんど全員が各ルート全てに登ることができた。夏合宿前に登攀ルートと下降の概念、リード要因の可否を全体で掴め、夏合宿に弾みがついた。また、各ルートで必要なガチャも絞れたため、夏合宿でのガチャのやりくりも容易になった。

雪渓はナムの滝以外は全て繋がっていた。





焼山沢

日程：7/27（日）

メンバー：

会 3 田中、木村 L

会 2 江田、橋本

記録

天気 晴

07:55 駐車場・遡行開始

10:00 焼山滝

10:50 発

12:35 駐車場・遡行終了

所感：

道中の行程は河原歩きに近いが、焼山滝はそれなりに楽しい沢登りができそうだったが、装備を持って行っていなかったため、一段登って引き返した。



三ノ沢岳独標尾根

日程：8/2（土）～8/3（日）

メンバー：

会 3 小嶋冴空（L）

田中佑之介

記録：

8/2 1日目 晴れ

5:30 風越山登山口

6:35 風越山

8:40 天狗山

10:30 独標

14:00 中三ノ沢岳コル T.S.

8/3 2日目 晴れ

4:00 T.S. 5:00

5:30 中三ノ沢岳

9:00 三ノ沢岳 9:55

11:10 宝剣岳

11:55 木曾駒ヶ岳 12:15

13:15 将基頭山

14:55 大樽避難小屋

16:20 桂小馬登山口



所感：

超ヤバ激ヤブ祭りを体感したくば三ノ沢岳
独標尾根を訪れるとよい。よくわからない
高密度の針葉樹林をかき分け、石楠花を押
しのけ、海とも形容すべきハイマツの群生
をこぎ続けた先にたどり着くピーク。その
感動はひとしおである。

初日、寝不足から前衛を張れなかったが、田
中が何とかしてくれた。こういった藪漕ぎ
には農学部森林環境なんたらコースの奴を
連れて行くと頼りになるでしょうね。藪の
濃さは中三ノ沢岳の上から本領発揮し、
三ノ沢岳まで断続的に続く。そして、唐突に
終わる。バリルートに比して登山道のなん
と歩きやすいことか。

三ノ沢岳を越えて以降は、ほとんど記憶に
残っていない。前日見た、「イリヤの空、UFO
の夏」のエンディングについて考えを巡ら
せていたからだ。歩きやすい道というのも
考え物である。

北岳バットレス

日程：8/25（月）～8/26（火）

メンバー：

会3 日比、木村 L

会2 中田

記録：

1 日目 天気 曇

14:00 広河原山荘

15:15 白根御池小屋

2 日目 天気 晴

02:00 起床

02:45 発

03:00 二股

03:30 登山道離脱

04:00 b ガリー大滝取り付き

05:15 b ガリー大滝終了

05:50 第四尾根取り付き

07:50 マッチ箱のコル

09:50 TO

10:10 北岳

10:30 発

10:45 肩の小屋

11:00 小太郎山分岐

11:35 テン場

12:00 発

13:10 広河原山荘

所感：

b ガリー大滝までは踏み跡多数で意外と歩
きにくい、正解だったかは分からない。明
るくなるのを待って登攀開始。b ガリー大
滝はじめは斜度も強く、浮き石も多いの
で一応ロープを出した。そこからは踏み跡
明瞭だが、左にトラバースする入り口を見
過ごさないこと。中田は前から指示したに
も関わらず上がりすぎてしまい、一時迷子
になった。ヒデュンスラブは湿っているし、
苔も生えているが 5m もないので、ロープ
は不要かと思う。

第四尾根は IV+のピッチもほとんど一手だ

けで、各終了点には1つか2つは綺麗なペ
ツルがあった。カムはどのピッチでも有効
で3番も使えた。行程がそれなりに長く、
帰りのバスの時間もあるが、初めての本チ
ャンに最適ではないだろうか。



地獄夏縦走 北ア隊

日程：8/27（水）～9/5（金）

メンバー：

会2 江田(CL) 橋本

会1 浦本 谷口

記録：

※全日3時起床

1日目 天気 曇時々雨

9時30分 駐車場発

10時10分 三俣登山口

10時30分 分岐

14時30分 避難小屋

2日目 天気 晴

4時10分 発

5時00分 分岐

5時10分 常念岳山頂

5時20分 分岐

6時30分 常念乗越

7時35分 横通岳山頂

8時45分 東天井岳分岐

9時00分 東天井岳山頂

9時10分 分岐

9時55分 大天荘

10時20分 大天荘発

10時30分 大天井岳山頂

11時05分 大天井岳山頂発

11時20分 大天荘

12時20分 びっくり平

13時10分 日陰(偵察)

14時20分 発

14時30分 赤岩岳山頂の印

14時40分 赤岩岳山頂直下

15時10分 テンバ 2750m

3日目 天気 晴

3時50分 発

4時15分 西岳山頂

4時25分 ヒュッテ西岳

5時20分 水俣乗越

7時15分 ヒュッテ大槍

7時35分 殺生ヒュッテ

8時15分 槍ヶ岳山荘

8時35分 槍ヶ岳山頂

8時45分 槍ヶ岳山頂発

9時00分 槍ヶ岳山荘

9時05分 槍ヶ岳山荘発

9時55分 千丈沢乗越

12時25分 硫黄乗越

13時15分 樺沢岳山頂

13時35分 双六小屋

14時00分 発

14時20分 分岐

15時05分 双六岳山頂

15 時 20 分 双六岳山頂発
 16 時 30 分 テン場 2840m
 4 日目 天気 晴
 3 時 45 分 発
 3 時 55 分 丸山
 4 時 10 分 三俣蓮華岳山頂
 4 時 50 分 三俣山荘
 5 時 10 分 三俣山荘発
 6 時 20 分 鷲羽岳山頂
 7 時 05 分 ワリモ岳山頂
 7 時 20 分 ワリモ北分岐
 8 時 10 分 水晶小屋
 8 時 25 分 水晶小屋発
 8 時 50 分 水晶岳山頂
 9 時 30 分 水晶小屋
 10 時 10 分 東沢乗越
 11 時 25 分 真砂岳分岐
 12 時 20 分 野口五郎岳山頂
 12 時 40 分 野口五郎小屋
 14 時 20 分 三ツ岳
 14 時 55 分 テン場三ツ岳直下 2830m
 5 日目 天気 晴
 3 時 40 分 発
 4 時 45 分 烏帽子小屋
 5 時 40 分 烏帽子岳山頂
 6 時 55 分 南沢岳山頂
 8 時 10 分 南沢乗越
 9 時 00 分 不動岳山頂
 9 時 15 分 不動岳発
 13 時 00 分 船窪岳山頂
 13 時 25 分 分岐
 14 時 00 分 船窪小屋テント場
 14 時 30 分 分岐
 14 時 35 分 七倉岳山頂

15 時 45 分 七倉乗越
 16 時 30 分 テン場北葛岳直下 2350m
 6 日目 天気 晴
 3 時 55 分 発
 4 時 00 分 北葛岳山頂
 6 時 30 分 蓮華岳山頂
 7 時 30 分 針ノ木小屋
 8 時 50 分 針ノ木小屋発
 9 時 40 分 針ノ木岳山頂
 10 時 45 分 スバリ岳山頂
 12 時 35 分 赤沢岳山頂
 13 時 30 分 鳴沢岳山頂
 14 時 05 分 新越乗越
 15 時 00 分 岩小屋沢岳山頂
 16 時 15 分 種池山荘
 16 時 55 分 テン場爺ヶ岳直下 2500m
 7 日目 天気 晴れのち雨
 3 時 45 分 発
 4 時 30 分 爺ヶ岳中峰
 5 時 25 分 冷乗越
 5 時 40 分 冷池山荘
 6 時 45 分 布引山山頂
 7 時 30 分 鹿島槍ヶ岳 南峰
 7 時 50 分 鹿島槍ヶ岳 南峰発
 8 時 20 分 鹿島槍ヶ岳 北峰
 9 時 45 分 キレット小屋
 10 時 55 分 口ノ沢のコル
 11 時 20 分 北尾根の頭
 13 時 15 分 分岐
 13 時 30 分 五竜岳山頂
 14 時 05 分 分岐発
 14 時 45 分 五竜山荘
 14 時 50 分 白岳分岐
 15 時 20 分 テン場 2400m

8 日目 天気 暴風雨のち晴
3 時 45 分 発
5 時 30 分 唐松岳頂上山荘
6 時 05 分 唐松岳
9 時 45 分 天狗ノ頭
10 時 00 分 天狗山荘
11 時 00 分 白馬鍵ヶ岳
12 時 15 分 杓子岳
13 時 05 分 白馬岳頂上宿舎分岐
13 時 25 分 白馬山荘
13 時 40 分 白馬岳山頂
14 時 45 分 三国境
15 時 45 分 雪倉岳避難小屋

9 日目 天気 晴れ時々曇り

3 時 45 分 発
4 時 20 分 雪倉岳山頂
6 時 30 分 分岐
7 時 25 分 朝日岳山頂
8 時 05 分 吹上のコル
10 時 35 分 分岐
10 時 40 分 黒岩山
11 時 35 分 サワガニ山
12 時 55 分 犬ヶ岳山頂
13 時 00 分 梅海山荘

10 日目 天気 雨のち晴

3 時 45 分 発
6 時 00 分 下駒ヶ岳山頂
7 時 10 分 白鳥山山頂
9 時 10 分 坂田峠
9 時 40 分 尻高山
10 時 20 分 入道山
11 時 10 分 梅海新道登山口

所感：

昨年夏縦走、3 度目のトライで白馬～日本海を縦走した。鉄塔らへんで波が

見えた時、初めから通しで来たらどんな風を感じるんだろう、来年俺がリベンジしてやんよと思った。というわけで昨年と同じく親不知行の山行になった。昨年と今年の私バージョンの違いは初日に前常念岳避難小屋で止めることで、負荷を抑えることである。さて、最初に総括させてもらおうと今山行はハッキリ言って**地獄**であった。山岳会に入り登山をしてきた中で精神的に辛いことなど無かったのだが、初めてガチで辛いと思った。それでも完遂したのだからそこはメンバーたちに感謝である。ありがとうございます。具体的な内容に移るが、まずご飯に関して。朝はお茶漬けを採用し、茶は気分で作ったため初日以外 4 時前に出発できた。マルタイラーメンと豆乳で豆乳麺を作ったりもした。ご飯面に関しては満足이었습니다。レーションに関して私はオートミールを採用した。前夜に翌日の分に水を給水させておき、これとドライフルーツ、ナッツを混ぜたため栄養面に関しては最強のものになったと自負している。しかし完全無欠なものなど無く、オートミールは粘性が高いため、見事に虫歯を作ってしまった。レーションは本当に奥が深いと感じる。幕営に関しては自分のやりたかったことが出来て、3 小屋 3 テント 3 青空で、テンバ代はノーマネーでフィニッシュです。色々なことをやったり浦本は泣いたり暴風雨で不帰の嶮に突入したり浦本は泣いたりしたが、完遂できたのは毎日起きて、飯食って、歩いて、飯食って、寝るという当たり前のことを 10 日間続けたからだと思う。

ただ、各々課題は見つかったであろうし、この10日間をより価値あるものにするためにこれからも登山を続けてほしい。



単独無補給！北アルプス全山縦走！

日程：8/27（水）～9/13（土）18日間

メンバー：会3 小嶋冴空（L）

記録：

8/27 1日目 曇のち雨

8:40 白沢登山口

10:30 魚止ノ滝

15:20 大風山

北アルプス夏縦走隊に登山口まで送ってもらう。大容量、高密度の超ガッシャを背に苦痛の日々が始まった。



8/28 2日目 晴

4:00 大風山 5:00

6:30 餓鬼岳小屋 6:40

6:50 餓鬼岳

6:55 餓鬼岳小屋

11:45 東沢乗越

14:40 北燕岳

14:55 燕岳 15:00

15:15 燕山荘 15:35

18:55 大天井岳

19:00 大天荘 T.S.

毎度のことながら、初日は早々にダウン。遅れを取り戻すべく目標を大天荘に定める。燕以南の稜線の歩きやすさを痛感。

8/29 三日目 晴

4:00 T.S.5:00

5:40 東天井岳 5:40

6:25 横通岳

7:00 常念乗越

8:25 常念岳 8:55

12:40 蝶槍

13:30 蝶ヶ岳ヒュッテ T.S.13:40

13:45 蝶ヶ岳

常念の上りが辛いのは当然として、それ以降の蝶までの道のりにもあえいだ。少々荷物が大きい程度で蝶ヶ岳ごときに苦戦する自身の体力には、対戦ゲームで格下に負けるかのような悔しさを覚えた。

8/30 四日目 晴

5:00 T.S.6:00

7:00 大滝山荘

8:45 大滝槍見台 9:05

10:50 徳本峠小屋 11:00

13:00 霞沢岳

14:40 徳本峠 15:00

16:15 明神館 16:30

17:40 小梨平 T.S.

明神にたどり着いた時にはまるで大縦走を終えたかのように錯覚した。まだ始まりに過ぎないというのに…

8/31 五日目 晴

3:00 T.S.4:40

5:00 西穂高岳登山口

8:05 西穂山荘 8:30

10:50 西穂高岳 11:30

11:35 赤岩岳 12:00

12:10 間ノ岳 12:40

13:20 天狗ノ頭 13:25

15:15 ジャンダルム

登山客が大勢おり、すれ違う人々すべてに「大きい荷物ですね」「どちらまで行かれるんですか？」などと声をかけられた。その度に「親不知までです」と決め顔で応えるのは大変ではあったが、私は自尊心をもって動力としているので内心大喜びである。

9/1 六日目 晴

4:00 ジャンダルム 5:05

5:30 奥穂高岳 5:45

6:25 前穂高岳 6:40

7:30 奥穂高岳 7:40

8:00 穂高岳山荘 8:35

8:50 涸沢岳 9:05

11:25 北穂高岳南峰

11:45 北穂高岳

11:50 北穂高小屋 12:05

13:55 長谷川ピーク

14:40 南岳南コル

実は穂高連峰に足を踏み入れるのは初めてであり、適度な緊張感をもって臨めた。実際は大した難易度ではなかったが、それを予め知っていたのは油断が生じ、無事では通過できなかったかもしれない。私はそういう性格なのだ。

9/2 七日目 快晴

3:30 T.S.4:20

4:50 南岳小屋

5:00 南岳

6:00 中岳

6:20 大喰岳 6:40

6:50 飛騨乗越

7:00 槍ヶ岳山荘 7:20
 8:15 水俣乗越
 8:50 西岳
 9:20 赤岩岳 9:50
 10:00 ヒュッテ西岳 10:25
 10:50 水俣乗越
 12:00 槍ヶ岳山荘 12:10
 12:20 槍ヶ岳 12:25
 12:40 槍ヶ岳山荘 13:10
 13:30 千丈沢乗越 13:40
 15:40 硫黄乗越 15:50
 16:20 樅沢岳 16:30
 16:50 双六小屋 T.S.

こいつはなぜこんな無駄なピストンをしているのだと思われることだろう。西岳ピストンは、当縦走を北ア全山縦走と呼称するためだけにルート入りしたのだ。実際無駄である。



9/3 八日目 曇、雨
 5:00 T.S.6:30
 7:25 双六岳 7:35
 8:20 三俣蓮華岳
 9:30 黒部五郎小舎 9:50
 11:55 黒部五郎岳 12:20
 13:20 中俣乗越
 14:40 北ノ俣岳 15:00
 15:50 太郎平小屋 16:05

16:15 薬師峠
 17:00 薬師平
 18:00 薬師岳山荘
 18:30 薬師岳避難小屋跡

双六岳あたりで遭遇したガイド風の方、見ておられますか〜？私が親不知を目指すと説明した後、蓮華から抜けるんでしょうねと客に伝えていたようですが黒五、立山も経由してますよ〜！！

9/4 九日目 曇のち雨
 3:00 避難小屋跡 4:40
 4:50 薬師岳
 5:30 北薬師岳 5:50
 6:45 間山 7:10
 7:50 スゴ乗越小屋 8:10
 9:10 スゴ乗越 9:20
 10:15 スゴノ頭 10:25
 12:15 越中沢岳 12:30
 13:20 越中沢乗越
 14:25 鳶山 14:35
 15:00 五色ヶ原山荘 15:05
 15:25 五色ヶ原 T.S.

歩き始めて覚えた違和感。あれなんか足痛くね？疑念はわずか十分後には確信に変わった。断裂でもしたのかと思えるほどの強烈な痛み、三步ごとに歩みが止まる。これは大腿四頭筋の痛み、前日の木道歩きが後を引いたなとガタイで分析。早々に切り上げ、つまみとして持ち込んでいたするめ及びえいひれ一パックを食べ尽くす。タンパク質補給による超回復を期待しての行動だ。果たして結果やいかに。

9/5 十日目 晴のち雨
 6:30 T.S.7:35
 8:05 ザラ峠 8:15

9:20 獅子岳 9:50

11:30 龍王岳

11:50 浄土山

12:15 一ノ越

12:45 雄山

12:55 大汝山 13:05

13:15 富士ノ折立 13:25

13:40 真砂岳

14:30 別山北峰

15:20 剣山荘

17:00 劔岳 17:20

20:00 剣御前

22:30 一ノ越

22:50 2840P

少しでも歩行に支障が残っているようなら下山しようと覚悟していたのだが、腿の痛みは消え去っていた。嬉しさ半分、落胆半分、これも定めかと歩みを進めた。



9/6 十一日目 晴

4:00 P 5:00

8:45 獅子岳

9:40 ザラ峠

12:35 刈安峠

14:00 平ノ渡場 15:00

16:45 奥黒部ヒュッテ T.S.

当縦走唯一の歩かずとも進めるポイント、平ノ渡。たのしかった。

9/7 十二日目 風雨

6:00 T.S. 7:15

13:15 赤牛岳 13:45

15:50 温泉沢の頭

16:55 水晶岳北峰

17:10 水晶岳南峰

17:35 水晶小屋

18:10 ワリモ岳

18:25 鷲羽岳

18:40 ワリモ岳

19:10 黒部源流 19:15

19:50 水晶小屋 19:55

20:25 東沢乗越 T.S.

読売新道辛いです。Twitter に接続できなければ耐えられなかっただろう。

暗闇の中汲んだ黒部源流の水はおいしく、がぶがぶ飲んだのだが、翌朝、ポリタン内の不純物の浮きようを見て驚いた。知らぬが仏。

9/8 十三日目 雨

3:30 T.S. 4:20

6:10 南真砂岳

7:20 野口五郎岳 7:45

10:05 烏帽子小屋 10:20

10:35 前烏帽子岳

11:00 烏帽子岳

13:00 南沢岳 13:10

13:30 南沢乗越

14:40 不動岳 15:00

17:20 船窪岳第二ピーク T.S.

昨年日本アルプス縦走でもそうでしたが、今回もある感想を抱きました。断言します。南沢～船窪間は最悪です。クソ・ルート・オブ・ザ・イヤーです。

9/9 十四日目 晴

4:00 T.S. 5:00

6:00 船窪岳

6:10 船窪乗越

6:40 船窪小屋テント場 7:15

7:20 七倉岳

8:30 北葛岳 8:50

10:55 蓮華岳 11:00

11:40 針ノ木小屋 12:00

12:40 針ノ木岳 13:00

13:30 スバリ岳 13:40

14:45 赤沢岳 15:00

15:45 鳴沢岳

16:10 新越乗越

18:20 種池小屋 T.S.

私が船窪岳あたりをのったらと歩いていたところ立教大山岳部の主将を名乗る方に遭遇。烏帽子から来たのだという。あの(クソ)ルートを越えてこんな早くに！？穂高も一日で越えて双六まで行ったのだという。すごい人もおられるものですな。私はヘヴィ&スローをモットーに、怠けた山行をしています。

9/10 十五日目 晴

5:00 T.S. 6:00

6:30 爺ヶ岳南峰

6:40 爺ヶ岳中峰

7:05 爺ヶ岳北峰

7:45 冷池山荘 8:45

9:30 布引山

10:00 鹿島槍ヶ岳南峰

10:35 鹿島槍ヶ岳北峰

11:30 キレット小屋 11:45

12:55 口ノ沢のコル

13:15 北尾根の頭 13:55

15:50 五竜岳 T.S.

冷池山荘に長居していますね。私が頭皮ケアの次に気にかけている、ソシャゲのイベントを消化しておりました。ほかに特筆すべきことはありません。もう親不知までは消化試合です。

9/11 十六日目 風雨のち曇

3:00 T.S. 4:00

4:40 五竜山荘

4:40 白岳

5:15 大黒岳

6:55 唐松岳

7:20 不帰嶮 7:30

11:45 白馬鑓ヶ岳

12:30 杓子岳

14:00 旭岳

15:05 白馬岳 15:10

15:55 小蓮華岳

17:30 雪倉岳避難小屋

不帰嶮通過中に轟音があり、土砂崩れでも起きたのかと思ったのだが、まるで何の痕跡もなかった。あれは一体…



9/12 十七日目 曇のち雨

3:30 避難小屋 4:10

4:35 雪倉岳

7:20 朝日岳 7:40

10:30 黒岩山

11:10 サワガニ山 11:20

12:25 犬ヶ岳

12:30 榎海山荘 12:50

13:35 黄連山

14:00 菊石山

14:30 下駒ヶ岳

15:25 白鳥小屋

ここまで一切触れてこなかったが、実はこのころ食糧が枯渇していた。歩荷量を少しでも軽くするため、日夜度を超えた食糧減量政策が行われていたのだ。(特に美味しいレーションは夜食として一週間ともたずに消費された。) この日のレーションは 700kcal 弱。あと二日、あと二日、と、うわごとのように呟きながら歩き続けていたという。

9/13 十八日目 曇

2:00 白鳥小屋 2:50

3:45 金時の頭

4:15 坂田峠 4:25

4:55 尻高山

5:30 二本松峠

5:40 入道山

6:20 榎海新道登山口

6:30 親不知 6:50

7:50 親不知駅

白鳥小屋は素敵な小屋です。夥しい数のカマドウマが眠りを妨げてくることに目を瞑れば。

明確な目標を定めた後の私は、地元でも最強と名高い。残った行動食、クッキー三枚のみをお供に、親不知海岸を目指してただひたすら歩いた。あの見慣れた駐車場を目にした時の嬉しさたるや。長大かつ禁欲的な山行を終えたことへの感激…などは全くなく、帰宅したら何を食べようかと思いを巡らせていた。

所感：

SAC に入会して力を付けてきたと自負しているが、それは正しい判断なのか。それを確かめるために行った山行が昨年の日本アルプス縦走だった。

では今回の北アルプス全山縦走にはどのような崇高な考えを持って臨んだのだろうか。実のところ、何も考えてはいなかった。強いというならば、下界歩きが面倒だから山だけを歩ける長めのルートを構築しただけのことだ。

ただ実際に歩いてみると、私の問題点は浮き彫りとなった。顕著なのはやはり初日、40kg を大きく超えた歩荷を行うと、疲労の蓄積が著しい。38kg 程度まで落とすと、普段の週末山行と同程度まで落ち着いた。私の現時点での限界を体感した。また、九、十日目の筋肉痛。これは単なる錬成不足にとどまらず、歩行技術の欠如に端を発する。主に下りにおける乱雑な足置きはかねてから気づいてはいたが、今回ようやく実害となって表れた。今後意識の変革や、たんぱく源の準備を十全に行う次第である。

以下、お役立ち情報

装備

- 米 1.8 合×20 日分
- ペミカン 5 日分
- レトルト 15 日分
- 行動食 1,500kcal×20 日分（食いしん坊には足りない）
- モバイルバッテリー100,000mAh
- テント、ツェルト、火器など
- ポリタン 6L
- その他生活用具

計 42kg

昨今の米不足のせいで、無洗米ではない米を持っていく羽目になり地獄を見た。米を研がずに炊くくらいなら高価でもアルファ化米にするのが良いでしょう。軽量化もできます。

行動食はバタピーやかりんとうなどまずいものを選びましょう。長期縦走ではおいしいレーションは食べつくしてしまいます。ただ、まずいものばかりではモチベがもたないので別枠で持つが吉。

荷物が 40kg を超えてくると水分補給のたびに背負ったりおろしたりが大変ですよね。ハイドレーションがあるとこのストレスが消失！実際に体験しなければ持てない視座はあります！

モバイルバッテリーは十万 mAh あれば、長期縦走に耐えうる。(yamap 活動記録、娯楽としての利用も含む。)

夏縦走南ア隊

日程： 8/28 (木) ～ 9/3 (水)

メンバー：

会 2 武田 中田(L)

会 1 阿部 伊藤 高見

記録：

1 日目 天気曇り

6:15 芝沢ゲート

7:15 易老渡

12:05 易老岳

14:00 光岳

15:50 易老岳

16:10 2315m 付近

所感

1 年振りの芝沢ゲート。今年は、ヒルにやられることもなく、快適だった。

会 1 も歩荷を頑張っており、順調な一日目だった。

12:05 易しい

2 日目 天気曇り

記録

3:00 起床

4:00 出発

6:05 茶臼岳

7:50 上河内岳分岐

8:25 南岳

9:35 聖平

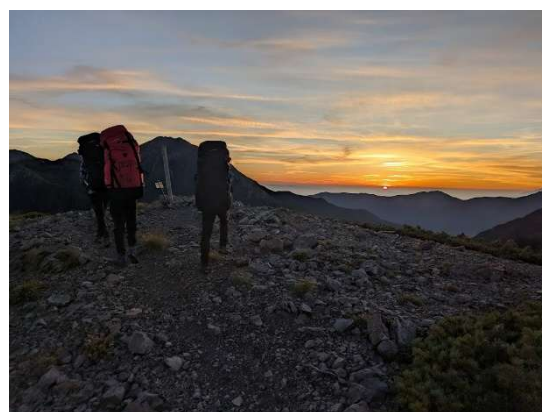
10:00 出発

12:30 前聖岳

14:45 兎平避難小屋

所感：

二日連続の歩荷で、最後は会 1 の疲れが大きく見えた。前線の影響か、午前は風が強く大変だったが、午後になると回復した。南アは 1 つ 1 つの山が大きく北アと違って面白い。ただ兎平避難小屋は使えたものじゃなかった。



3 日目 天気晴れ

記録

3:00 起床

4:00 出発

4:15 兎岳

6:00 中盛丸山

7:35 百間洞山の家

8:40 百間平

10:30 赤石岳

11:20 出発

11:45 小赤石岳

12:55 2700m 付近

所感

今日歩いたあたりが、南アの1番奥深いところなのではないかと思う。特に赤石岳より前は人気あまりなく楽しかった。会1も疲れはあるが楽しそうだった。

4 日目天気晴れ

記録

3:30 起床

4:00 出発

5:35 荒川中岳

6:20 悪沢岳

7:30 荒川中岳

7:50 荒川前岳

10:00 高山裏避難小屋

所感

悪沢岳がとてまかつこよく好きな山になった。高山裏避難小屋の水場は思っている以上に遠く、気持ち的に今日の核心

だった。小屋には中央大学の山岳部もあり、少しばかり交流した。



5 日目天気晴れ

記録

2:00 起床

2:50 出発

3:45 板屋岳

4:40 大日影山

6:05 小河内岳

6:45 前河内岳

7:15 烏帽子岳

7:45 三伏峠

9:15 本谷山

10:55 塩見小屋

12:00 塩見岳

14:00 出発

15:50 北荒川岳

16:15 2550m 付近

所感

今日は行動時間が長く、疲れを大きく貯めてしまった。塩見岳山頂で Pasta はしない方がよい。直射日光が暑すぎて、出発する頃にはみんなばててしまった。縦走も三伏峠をこえ、後半戦になった。塩見岳の手前から一年縦走を見据え、会 1 に仮リーダーとして判断をしてみるよう指示した。



6 日目天気晴れ

記録

2:00 起床
2:45 出発
3:35 新蛇拔山
4:45 安倍荒倉岳
5:15 熊の平小屋
7:05 三峰岳
7:50 間ノ岳
8:10 出発
8:40 三峰岳
11:15 野呂川越
11:50 横川岳
12:20 独標
13:00 高望池

所感

会 1 の靴擦れがひどく、腫れあがってしまった。長い行動時間はこれ以上厳しく、北岳に行くことを断念してしまった。しかし、残すは仙丈ヶ岳と甲斐駒ヶ岳。とうとう終わりが見えてきた。

7 日目曇り

3:00 起床
4:00 出発
4:30 伊那荒倉岳
6:35 大仙丈ヶ岳
7:05 仙丈ヶ岳
7:45 小仙丈ヶ岳
9:30 北沢峠

所感

北沢峠にてみんなで話し合い、ここで縦走を終えることとなった。会 1 の足の状態や疲労からくるモチベーションも原因だが、1 人 1 人の気持ちや目標のずれが帰るという決断に至った要因ではないかと思う。縦走に入る前にも少し話し合おうとよかったのではないか、大人数で行う縦走の難しさを知った。しかし、これから冬に向けて、いい経験となる縦走になったのではないかと思う。

雲ノ平周回

日程：8/31（日）～9/3（水）

メンバー：

会 3 木村 L

記録：

1 日目 天気 晴

17:20 黒部ダム駅

17:45 ロッジくろよん

18:50 ロッジくろよんと平ノ小屋中間部

2 日目 天気 晴

01:30 起床

01:45 発

02:35 平ノ小屋

03:20 荊安峠

04:30 五色ヶ原山荘

04:50 鳶山

05:35 越中沢岳

07:00 スゴ乗越小屋

07:40 間山

08:25 北薬師岳

08:55 薬師岳

09:25 薬師岳山荘

10:45 太郎平小屋

12:05 薬師沢小屋

13:45 雲ノ平小屋

3 日目 天気 晴

12:00 発

14:00 高天原山荘

14:15 高天原温泉

4 日目

06:00 起床

08:20 発

09:50 温泉沢ノ頭

10:45 赤牛岳

13:00 奥黒部ヒュッテ

14:25 平ノ渡場

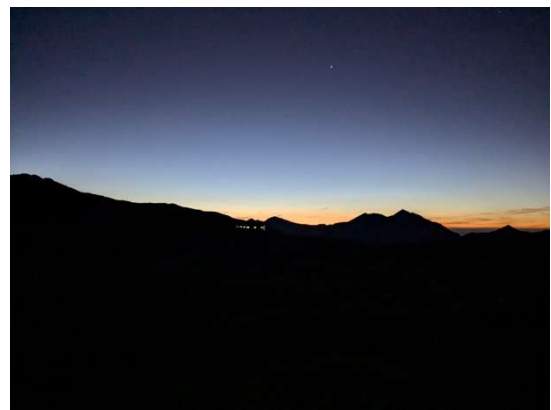
17:35 針ノ木小屋

18:40 大沢小屋

19:20 扇沢駅

所感：

元同期で雲ノ平山荘で働く吉田に会いに小屋泊山行を計画。トレラン山行のつもりだったが、ビバーク装備と雲ノ平山荘へのお土産、エッセンの焼き鳥セットとそれなりの荷物になってしまった。今まで歩いたことのない道を歩く目的ならば、天気の良い日にこういった山行を組むのもありだと思った。針ノ木古道はそれなりマーキングもあり、慎重に進めば道を外すことはない。ただ、渡渉は足が濡れる前提、道もところにより藪が深くて前が見えず、普通に沢登りではないかといった箇所も多々あったが、全体的に趣が深い道だった。また、一番藪が深い箇所で熊に遭遇。熊がこちらに気づいて逃げる、ほんの2~3mの距離に迫るまで全く認知できなかった。勇猛果敢な熊であれば、完全に襲われていた。以後は定期的に奇声をあげ、こちらの存在をアピールして歩いた。



槍ヶ岳 北鎌尾根

日程：9/5（金）～9/6（土）

メンバー：

OB 師田さん
会 3 木村 L

記録：

1 日目 天気 雨

06:30 上高地駐車場

07:15 明神

08:05 徳沢

09:00 横尾

10:25 槍沢ロッジ

11:40 発

12:05 ババ平

12:25 水俣分岐

13:30 水俣乗越

14:55 北鎌沢出合

17:00 北鎌のコル

2 日目 天気 晴

03:00 起床

05:10 発

07:45 独標

10:05 北鎌平

10:50 槍ヶ岳

11:20 槍ヶ岳山荘

13:30 大曲

14:00 ババ平

14:25 槍沢ロッジ

15:55 横尾山荘

16:55 徳沢園

17:45 明神

18:25 上高地駐車場

所感：

雨のため傘をさして、槍沢ロッジまで。北鎌沢出合についてからまた雨が降り始める。北鎌沢は所によりクライミング的な動きも強いられ、人によっては難しく感じそう。クライマーズホイホイの箇所は先が見通せればコルに向かえば良いが、見えない場合は沢筋を行くと覚えていればいいたろう。OB との山行でかつ全身濡れたのにも関わらず火器ヘッドを忘れる痛恨のミス。始めは諦めてペミをそのまま食べたが、白ガスを使って何とか火を起こすことができ、一応米は炊けた。朝ラーは時短のために、前日から水でふやかして加熱したが、あまりの不味さに最後は少し捨ててしまった。

独標直登は最初の一手だけ強度の高い動きになるが、それ以外は特に問題ない。開始点はピナクルで取れ、一段上がったあとも木から、終了点もピナクルで取れるので、正直カムはいらないかと。トラバースの方が悪そう。一箇所足で軽く触れただけで大きな落石を起こしてしまい、後ろを歩いていた師田さんを掠める場面がありヒヤッとした。北鎌は終始リッジを行くことができ、ほとんどのピークで下らない。（下っても 5-10m ほど）巻き道が付いている所もあるが、側壁を登るほうが危ないと思う

れる。絶妙なクライムダウンも無かった。



谷川岳東尾根、一ノ倉沢（烏帽子岩南稜、衝立岩中央稜）

日程：9/7（日）～9/8（月）

メンバー：

会 3 日比、木村 L

記録：

1 日目 天気 晴

06:30 谷川ベースプラザ

07:10 巖剛新道登山口

07:35 第一見晴

07:45 マチガ沢

08:50 シンセン沢出合

10:10 シンセン沢のコル

14:45 オキの耳

15:10 トマの耳

15:55 天神分岐

16:55 谷川ベースプラザ

2 日目 天気 晴

03:25 谷川岳インフォメーションセンター

04:25 一ノ倉沢出合

05:20 ヒョングリの滝懸垂点

06:30 発

07:05 一ノ倉沢出合

08:30 谷川岳インフォメーションセンター

所感：

巖剛新道からマチガ沢への下降は踏み跡明瞭。シンセン沢は水が完全に枯れていて、思ったよりも沢幅も狭かったために見過ごしてしまった。高めの笹と低木のある斜面をややトラバース気味に右上しシンセン沢に合流したが、水を汲んでいなかったために、100m ほど下降して水を汲んだ。

シンセン沢は右俣左俣分岐までは難なく行けるが、そこから右俣のコルまで、特に始めの岩を登り右にトラバースして右俣の左岸に行くまでが、おそらく下が岩でそこに軽く堆積下土砂に 15cm ほどの草付きがある箇所が斜度も強く、落ちたら下まで落ちてしまうが、草もすぐ抜けるか千切れるかで怖かった。初めてハンマーのピックを使った。ロープを出すにも支点も取れず、懸垂点もないために上がるしか無く、今までで一番緊張したかもしれない。

コルに上がってからも藪は深く、岩の方が歩きやすかった。第二岩峰の登りは一手かなり足を上げて思い切りがいる箇所あり。その後は良くはない歩きが続き、時より出てくる岩場は一応ロープで確保する。革新の第一岩峰は確かに全ての岩が安定していれば、被っているだけで難

しくはないが、水晶が柱状に刺さっているオブジェを横にした様な感じで、2-3mほどの岩ごと取れてもおかしくない雰囲気。確かに取れなさそうだが、浮いている塊も多く、プロテクションはカムがよく使えるが、岩ごと落ちそうで緊張感があった。また、この基部で残置のザックが3つとツェルトが張ってあった。調べてみると3月に技量不足で遭難したパーティーだと判明。

その後オキの耳まで乗り上げるのは爽快だった。

これが1級というのはあまりにシビアで、クライミング区間も岩の脆さと支点の設置しにくさを考慮すれば、Ⅲ級ではないような…。

一ノ倉沢はヒョングリの滝までの道の高巻きが、暗いと分かりづらく、誤って左岸に入り込んでしまった。(こちらにもフィックスロープが張られていて、紛らわしかった。) ヒョングリの滝からの懸垂後は雪渓が張りでていて、辛うじて乗り移れはしそうだったが、雪渓から降りられたかは怪しかった。(その後出合の望遠鏡から見た感じ。) また、何とか本流の渡渉はできそうだったが、そこから衝立前沢を上がり中央稜に取り付けるかは一見ただけでは怪しく、そこまでの対処能力はないとして、撤退した。どのみち、雪渓を横断する場合はピッケルア

イゼンは必携で、下調べが甘かった。なお、7月位までの記録はあったが、その後は10月までほとんど見当たらず、これは雪渓判断の難しさから来ているものと思われる。過去に雪渓崩壊による死亡事故も散見された。

谷川は総じて取り付きまでの悪さ、懸垂の多さ、落石などの対処。また、山頂まで抜けるにしても、ロープで確保しにくい箇所などもあり、個人の総合的な能力を必要にすると感じた。

次は雪渓が安定している時期にチャレンジしたい。



白根南嶺縦走

日程：9/8（月）～9/13（土）

メンバー：

会3 田中(L)

記録・所感：

0 日目 晴れ

23:08 波高島駅

25:35 板野公園

終電で波高島駅に降り立ち、登山口までのロードを進む。

1 日目 曇り

3:15 板野公園発

4:50～5:15 七面山山門登山口

8:40 敬慎院

9:40 七面山

12:30 八紘嶺

14:20 大谷嶺

14:55 新窪乗越

16:30 山伏

安部奥の稜線を歩き、白根南嶺最南端の山伏を目指す。七面山～八紘嶺の区間は記録が少ないが、登山道は明瞭であった。安部奥の稜線も明瞭な登山道が続く。

2 日目 晴れのち曇り

4:00 起床

5:10 発

7:10 小河内岳

9:20 青笹山

12:45 青薙山

13:50 稲又山

14:35～15:00 所の沢越

16:50 布引山

青薙山までがルーファイ、危険箇所ともに今山行の核心となる。青笹山周辺は踏み跡も薄く、二重稜線のルーファイが難しい。崩壊地である青薙は今も崩壊が進んでいる箇所であるため、事前に確認

した記録とは様子が違っていた。青薙の中でも核心は距離にして 3m ほどだが、崩壊によって全く足場にならない箇所が 1m ほどある。そのため安定している岩を見つけ、無理矢理越えていく他なかった。ユマールの装備があったため何とか突破したものの、装備なしでは撤退以外に選択肢はなかった。保険として持参して良かった。スルーしたが、所の沢越は魅力的な天場であった。



3 日目 曇り

3:40 起床

5:10 発

5:55 策ヶ岳

7:20 偃松尾山

8:40 天上小屋山

10:15～45 伝付峠

12:45 奈良田越

15:40 笹山北峰

16:35 白河内岳

歩きやすい登山道および旧林道が続く行程である。人の手を離れて自然に還りつつある遺構が目を引き。笹山北峰からはようやく森林限界を超える。感慨深い。

4 日目 雨

3:40 起床

4:55 発

6:35 広河内岳

7:45 農鳥岳

9:50 間ノ岳

10:45 北岳山荘

11:50 北岳

12:35 八本歯のコル

13:20 ボーコン沢ノ頭

14:45 池山小屋

白根南嶺を抜け、白根三山の稜線を行く。雨と強風に見舞われた寒い稜線であったが、時より晴れ間が見えた。

5 日目 曇り一時雨

2:30 起床

3:30 発

5:05 あるき沢登山口

5:55 野呂川吊橋

6:45 鷲ノ住山

7:45 夜叉神峠西口

9:00 夜叉神峠

11:15 苺平

12:25 大馴鹿峠

14:20 甘利山

14:30 甘利山登山口

17:45 釜無川河川敷駐車場

下山日。歩きにくい池山吊尾根を下って、鷲ノ住山を登り返す。野呂川吊橋への下降路が分かりにくく、歩きにくいことを除けば快適な道である。夜叉神峠西口～夜叉神峠の廃道は、取りつきが難しい。踏み跡さえ見つけると後は比較的歩きやすい。苺平以降は明瞭だが、急坂や細かいアップダウンが続く。下山後は18kmのクソロードをおかわりして、今



山行のシメとした。

女鳥羽川沢登り

日程：9/14（日）

メンバー：

会3 木村 田中

会2 江田(CL) 橋本

記録：

1 日目 天気 曇

08:10 駐車場

08:30 入溪

12:30 脱溪

13:20 登山道復帰

13:40 烏帽子岩

15:10 駐車場

所感：

イワナは一匹釣れました。生で食べました。悪くなかったです。遊ぶにはもってこいの場所と溪相だと思いました。カム持っていれば最後の大滝も登れます。



北アルプス一年縦走

日程：9/15（月）～ 9/20（土）

メンバー：

会1 谷口（L）、阿部、伊藤、浦本、高見

記録・所感：

1日目 天気 晴れ

7:50 黒部ダム

8:20 ロッジくろよん

12:45 東一ノ越

14:00 一ノ越山荘

16:35 獅子岳

初めての会1だけの山行ということもありワクワクしていた。ロープウェイを眺めながらゆっくりと標高を上げ

ていった。夏縦走の様子から歩荷量を調整したので疲労度に個人差が出てしまった。まだまだ槍ヶ岳は小さく見えた。



2日目 天気 晴れ

3:00 起床

3:55 出発

4:50 ザラ峠

5:40 五色ヶ原山荘

6:30 鳶山

7:50 越中沢岳

10:30 スゴ乗越

11:20 スゴ乗越小屋

12:45 間山

14:30 北薬師岳

15:40 薬師岳

とにかく暑かった。1日目に標高を上げたことや暑さの影響で思うようにペースが

上がらなかった。一本を取る時もメリハリがつかず目標としていたところに辿り着くことができなかった。テント内で明日からはメリハリをはっきりさせて進もうと皆で話し合った。

3 日目 天気 曇り

3:00 起床
3:55 出発
4:15 薬師岳山荘
5:30 薬師峠キャンプ場
5:50 太郎平キャンプ場
7:55 薬師沢
10:45 雲ノ平山荘
12:15 祖父岳
13:00 岩苔乗越
13:10 ワリモ北分岐
13:35 ワリモ岳
14:05 鷲羽岳
15:05 三俣山荘
16:05 三俣蓮華岳
16:35 丸山

2 日目の夜に話し合ったことでかなりいいペースで進むことができた。出発時点で水分が枯れそうだったので水が沸いているところを見つけた時全員で啜った。薬師沢からの登りはきつかったが登り切ることができた。雲の平バーガーの誘惑に負けそうだったがなんとか進むことができた。

4 日目 天気 雨

3:00 起床
3:45 出発
4:30 双六岳
5:10 ツェルトにくるまった
5:50 発
6:20 双六小屋

出発するときは風も雨も控えめだったが双六岳付近でまっすぐ立っていられないくらいの暴風雨となった。進める状況ではないと判断し風を避けられるところでツェルトにくるまり夜明けを待った。明るくなってからゆっくりと進み双六小屋で沈殿することにした。

5 日目 天気 晴れ

2:00 起床
2:50 出発
3:20 樅沢岳
3:50 硫黄乗越
5:50 千丈沢乗越
6:50 槍ヶ岳山荘
7:15 発
7:45 ヒュッテ大槍
9:10 水俣乗越
10:10 ヒュッテ西岳
11:00 赤岩岳
12:15 大天井ヒュッテ
13:00 大天荘
13:10 大天井岳
15:00 東天井岳



沈殿したこともあり皆体力が回復してかなりいいペースで進むことができた。槍ヶ岳山荘に着き槍ヶ岳へ登ろうとしたが登山道が色とりどりになるくらいの登山者がいて登頂は断念した。風を避けれるところで授業の履修登録をし行程を進めた。

6日目 天気 曇り

2:00 起床

2:45 出発

3:40 常念小屋

4:40 分岐

5:00 常念岳

5:50 前常念岳

9:05 三俣登山口

午後から天気が崩れそうだったが出発時は少し風があるくらいで快適だった。前常念岳を超え林道に入り最後まで集中を切らさずに歩くことができた。三俣登山口に着いた時皆狂喜乱舞の様だった。

そこから4時間ほど駅まで歩き電車に乗ったが、心なしか自分たちの周りは空いていた。

総括：

事故なく安全に下山することができた。上級生がいなかったので様々な判断を自分たちでしなければならなかったが皆で意見を交わし最後まで行程を通すことができた。

夜明けの静けさ、沈む太陽、一步すら踏み出せない嵐、山は何も語らず、ただそこに在った。五泊六日の縦走は、言葉よりも確かな記憶として刻まれた。

山行名大雪山縦走

日程： 9/18 (木) ～ 9/20 (土)

メンバー：

会2 武田篤志

記録：

1日目 天気 晴れのち曇りのち雨

5:10 出発

6:30 富良野分岐

6:45 富良野岳

6:55 富良野分岐

7:10 三峰岳

8:05 上富良野岳

8:20 カメホロカメトック山

8:30 上ホロ避難小屋

9:30 十勝岳

11:20 美瑛岳
11:30 分岐
12:10 分岐
12:30 美瑛富士
12:50 分岐
13:10 熊と遭遇
14:00 美瑛富士避難小屋

2 日目 天気 雨のち晴れ

2:45 起床
3:35 出発
6:13 オプタテシケ山
7:40 双子池
9:25 コスマヌプリ山
11:10 ツリガネ山山
14:30 トムラウシ南沼キャンプ指定地

3 日目

7:10 起床

8:10 出発

11:05 カムイ天井

12:00 トムラウシ短縮コース下山口

所感：熊との遭遇、ひざの痛み、寒さ等大変な面も持った山行とはなったが、ずっと行きたかった大雪山縦走ができて良かった。本来であればトムラウシ以降も行きたかったが過去最高のクマのリスクとなっている場所があるため下山しざる負えなかった。結果的に膝が痛く続行できたかも怪しかったので正しい判断であったと思う。大雪山ならではの景色、雰囲気、動物等とても楽しい山行であった。



中央アルプス縦走(真)

日程：9/22（月）～9/25（木）

メンバー：

会 3 田中(L)

記録・所感：

1 日目 曇り

0:10 飯田駅発

5:50～7:15 大平宿

7:50 摺古木自然園林道ゲート

9:25 摺古木自然園休憩舎

10:40 摺古木山

12:25 安平路避難小屋

終電で飯田駅に降り立ち、真夜中のロードを登山口の大平宿へ向かって歩い

た。摺古木山までの登山道は快適。以降は背丈ほどのササ藪になるが、踏み跡は明瞭。

2 日目 曇り時々晴れ

4:00 起床

6:00 発

6:55 安平路山

9:50 袴腰山

11:15 奥念丈岳

13:00 越百山

14:00 仙涯嶺

15:10 南駒ヶ岳

16:20 空木岳手前の 2770m コル（天場）

日が完全に明けてからスタート。安平路山以降はさらにササ藪が濃くなり、足元の感覚を頼りに進む。急登とササ藪の凶悪コンビとの格闘は4時間に渡って続いた。今シーズンは奥念丈岳～南越百山までが藪払いされていたので快適に進めた。



3 日目 晴れ

3:00 起床

4:15 発

4:35 空木岳

5:35 木曾殿山荘

6:45 熊沢岳

7:50 檜尾岳

9:20 島田娘

10:05 宝剣岳

10:40～13:50 木曾駒頂上山荘

14:00 木曾駒ヶ岳

15:05 西駒山荘

16:25 大樽小屋

天気に恵まれて気持ちの良い縦走路を進む。バイトの都合で頂上山荘にいたSAC 会員と3時間ほど駄弁った。

4 日目 曇り

4:00 起床

5:25 発

5:45 馬返し

7:45 烏帽子（1898mP）

8:50 権兵衛峠登山口

9:50 北沢山

11:10 経ヶ岳

13:10 仲仙寺登山口

馬返しからは登山道を外れてササ藪が始まる。とはいえ1916mPで落ち着いたあとは明瞭な登山道があった。記録が見つからない区間に身構えていたが、拍子抜けであった。中央アルプスの定義が難



しいが、今山行では伊那キャンがある経ヶ岳までの縦走とした。

錫杖 左方カンテ、1 ルンゼ

日程：9/23（火）～9/24（水）

メンバー：

会3 木村 L

会2 橋本

記録：

1日目 天気 曇

05:30 駐車場

06:35 錫杖沢出合

07:10 左方カンテ取り付け

10:20 TO

10:35 懸垂開始

11:10 懸垂終了

11:25 1 ルンゼ取り付け (f2)

12:10 正規取り付け

16:35 TO

17:30 懸垂終了

18:20 テン場

2日目 天気 晴

09:25 発

10:00 登山口

所感：

前衛壁までの取り付けは明瞭だが、帰りに錫杖沢から踏み跡に入る箇所は見落としてしまった。

左方カンテ

トポ 3p 目の v 級箇所は、一箇所細かいホールドをマッチさせるようなムーブも

あり、そのプロテクションも取れず残置ハーケン 1 つに頼った。

トポの 4-6p 目は分かりにくく、特に 5,6p 目の間の左に移る箇所が思ったより側壁のプロテクションの取れないフェース登りなのと、大テラス前の緩斜面が少しテラスっぽくて分かりにくかった。

7p 目の確信 v+は大テラスからはじめの 3m のチョックストーン越えが難しかった。ボルトもあり落ちてもテラスなので心理的な恐怖はない。さくっと A0 で越えたが橋本はフリーで登ってきた。頑張れば行けるレベル。最後のチムニーはプロテクションも取ないが、スラブ前にボルトもあり、思い切って越えられた。これより上部は草付きでプロテクションも乏しそうな感じ。染み出しもありヌメっていた。天気が良ければ登ってもいいかも。各終了点は綺麗なペツルが 2 本打ってあった。懸垂は 50m×2 と 5m ちょっとのクライムダウン。ラッペルステーションは綺麗なリング。1 回目の懸垂でロープを引き切ったあと、ピナクルにスタックしてしまった。2p 目から 3m ほど上部でぎりぎり手が届かず、一応ロープをつけてスタカットで回収した。

1 ルンゼ

取り付けが分かりにくかった。日本の岩場の前衛壁の概念図的には左方カンテからほぼトラバースで 1 ルンゼだが、誤って 3p 目の開始点に出てしまった。順番

待ちの段階では気づかず、登ろうとして初めて分かった。懸垂支点もあったため、50m ほど懸垂して取り付く。

1p 目はどこからも登れそうだが、どこもそれなりに悪く、右往左往してしまった。特に終了点のピナクル前は直上がプロテクションも取れにくくて悪く、少し右から回りぎみで登った。残置ハーケン使用。本当は 2p 目もリンクしたかったが、カムを忘れて 1set + α で弾切れしそうなので切る。2p 目の初めの v+ は足をしっかりジャミング、手はクラックが浅くジャミングが決まらず、体勢も悪くて難しかった。乗越もマントル返しのなムーブだった。トポ 3p~4p 目はルンゼ上を登ってから左のフェイス的なのを登る箇所が分からず、適当にカムで支点を作ってからピッチを切り、左にトラバースした。水流もあり、かなり分かりにくかった。

槍西稜

日程：9/25（木）～9/26（金）

メンバー：

会 3 木村 L

会 2 武田

記録：

1 日目 天気 雨

07:20 新穂高温泉駐車場

08:20 穂高平小屋

10:25 滝谷避難小屋

11:10 槍平小屋

2 日目 天気 雨～曇

03:30 起床

04:40 発

05:45 千丈沢分岐

07:00 槍ヶ岳山荘

09:30 発

10:30 登攀開始

13:30 小槍

13:50 発（懸垂）

14:30 槍ヶ岳山荘

15:40 千丈沢分岐

17:00 槍平小屋

17:25 発

18:15 滝谷避難小屋

19:50 穂高平小屋

20:40 駐車場

所感：

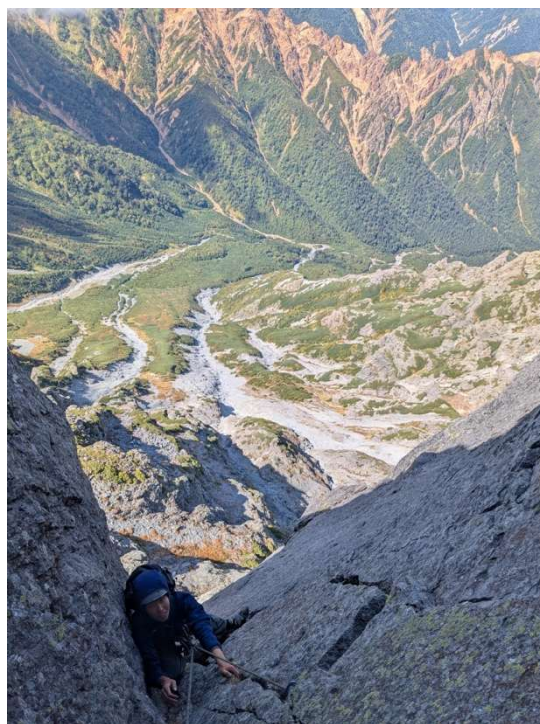
槍ヶ岳山荘まで上がる予定だったが、次の日の朝の天気が微妙なことで、どのみち取り付くのが明るくなってからということで、槍平小屋までとした。

次の日は朝エッセン中も小雨が振り、微妙な感じからのスタート。歩きながらも時より小雨がぱらつき、飛騨乗越手前からは強めの風も吹き始め、霧も濃く、全身ずぶ濡れになった。これでは登攀は当分厳しく、気が進まないながらも槍ヶ岳山荘に到着。しかし、寒すぎて震えが止まらない。あらかじめテルモスにお湯を入れてきたので、それを飲んで体を温めようとするが寒すぎたため、結局槍ヶ岳山荘内でカップラーメンを食べて待機することにした。9 時前より霧が晴れ始め、何とか登れそうな雰囲気になったため、とりあえず取り付きまで行き、難しそうなら小槍南面を登り帰るプランで取り付

く。ただ、寒すぎて終始ダウン・フーディー・厚手のパーカーを着用していた。

取り付きまではそれなりに踏み跡のようなものもあり、沢筋の下降も左岸の岩を上手く使えばそこまで悪くはなかった。トラバースは落ちたら一発アウトなのと、武田の歩行が危うかった（慣れない靴でその前にかなり怖い転倒をした）ため、一応確保した。

取り付きからのスラブは半分ほど濡れていたが、乾いている箇所を右往左往しながら登る。くの字シェードルまでは多分 50m ロープでも 1p で行けると思う。このピッチも難しくはないが、浮き石も多く、緊張感があった。肝心のくの字シェードルは思ったよりクラック幅があり、5,6 番サイズだった。壁は濡れに濡れ、最初の 5m は支点も微妙なハーケンのみで、ここの突破に時間を要した。薄いクラックにマイクロカムやナッツを取ろうともがくが取れず、最後は諦めて直上した。クラック内にそれなりにホールドがあると思ったが、意外と薄く、手が悴んでいることと濡れていてスメアしにくかったこともあり、より一層難しく感じたのかもしれない。その後は易しかったが、小槍は懸垂点までが意外と悪いので注意が必要。小槍より先はタイムオーバーのため断念。くの字シェードル手前で、なぜか千円札を拾った。



乳川谷沢登り

日程：9/27（土）～9/28（日）

メンバー：

会 3 木村 田中

会 2 江田(CL) 中田 橋本

記録：

1 日目 天気 晴

08:50 駐車場・入渓

13:00 テン場二股手前 1150m

2 日目 天気 晴

09:45 発

13:15 脱渓・駐車場

所感：

イワナは一匹釣って、一匹突きました。嘘じゃないです。のんびりしすぎて沢を全然詰められなかったです。それで

も泳ぎに登りに楽しめたのもう一回行
きたいと思いました。

